

学生による学生のための地域企業情報発信プロジェクト

WISE

Work-style Information by Student's Eye

2019



ジモト就職に チカラ

学生による学生のための地域企業情報発信プロジェクト

WISE Work-style Information by Student's Eye とは?

WISE(ワイズ)は、少しでも多くの若者が「ジモト」の良さを見つめ直すきっかけになればと、仙台市と大学、地元企業などが連携して、2015年秋にスタートした仙台独自のプロジェクトです。

WISEは、「Work-style Information by Student's Eye」の頭文字からネーミングしました。

地元の大学生が、学生記者としてさまざまな地元企業取材し、学生独自の目線で企業の魅力を冊子やWEBで紹介してきました。

プロジェクト始動から5年。のべ134人の学生が160社の地元企業の魅力を伝えてきました。大手就職情報誌には載らないような、学生自らが掘り起こしてきた地元企業の魅力が、少しでも多くの学生やその保護者にとって、「ジモト」を見つめ直すきっかけになれば幸いです。



①2015 年度成果発表会



②2016 年度成果発表会



③2017 年度成果発表会



④2018 年度成果発表会

※2019年度の成果発表会は、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し中止となったため、集合写真はありません。

これまで地元企業の魅力を発信してくれた学生記者の皆さんと、取材にご協力いただいた企業の方々にあらためて感謝いたします。

contents 目次

【特集】就活フォーラム 地元就職未来予想図 開催	2
【特集】地元企業魅力発信 イベント2019開催	3
企業紹介	4
学生紹介	65
索引	70

業種から
どんな企業があるか
探すことができます。

就活フォーラム 地元就職未来予想図 開催

9月18日（水）、仙台市青葉区の河北新報社1階セミナールームを会場に WISE 就活フォーラム「地元就職未来予想図」が開催されました。



WISE 就活フォーラム「地元就職未来予想図」には、宮城県内の大学生や企業・教育関係者を中心に、定員を上回る約60名が参加。

フォーラムは2部構成で行われ、第1部は「どこで、どんな仕事をするか?」をテーマに、慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科の横田浩一特任教授にご講演いただきました。ご自身の研究を基にした地元就職の良さを、データを用いて分かりやすくお話しいただき、「自分の生き方を自分で決断することがとても重要」と熱く語っていただきました。



第2部では、株式会社アフターリクルーティングの池谷昌之取締役社長をファシリテーターに、WISEの学生記者を経験し、現在は地元で就職している徳永璃都さん(株式会社泉緑化)、鎌田堯さん(株式会社荘内銀行)、小林奈央さん(株式会社清月記)、地元企業を代表して株式会社パルサーの阿部章代表取締役社長、横田教授をパネリストに、「本音トーク『地方で働く』〇と×」をテーマにパネルディスカッションを実施。「地元で働く」という選択について、それぞれの意見を交わしました。

その後、登壇者、運営者も交え、参加した全員でフォーラムの振り返りと情報共有を兼ねた交流会が行われ、地元就職に対する想いや意見などが語られていました。

今年度の WISE 学生記者で、参加した戸谷凛太郎さん(東北工業大学2年)からは、「就職について悩んでいる面もあったが、今回のフォーラムへの参加や WISE 記者としての活動が解決へのヒントになる」との感想がありました。

地元企業魅力発信イベント 2019 開催

10月6日（日）、仙台市青葉区の AER (5階) 仙台市中小企業活性化センター多目的ホールを会場に「地元企業魅力発信イベント 2019」を開催しました。

今回のイベントは、宮城県内の地元企業の情報を学生たちに早期に発信すると共に、企業と学生の活発な交流の促進と学生の地元への定着を目的に開かれたもので、地域協働教育推進機構、仙台市、宮城県が主催となり、地元中小企業情報発信事業(WISE)を運営する仙台・地域人材定着推進実行委員会が協力して実施したイベントです。

当日は、宮城県内の企業や自治体の40ブースが出展。休日開催ということもあり、昨年度を大きく上回る学生、企業関係者合わせて約250名が参加しました。

イベントは2部構成で行われ、第1部は企業説明会として2020年4月就職に向けた採用・求職活動を行い、第2部では企業が低学年生向けに企業情報を発信。参加した学生は、各ブースを回りながら、企業の現状と将来像、人材育成に関する質疑応答などを行い地元企業の魅力を探りました。

参加した学生からは、「自分が聞きたいことを聞いて、知りたかったことを知れるとても良い機会だった。これから、自分の将来を考える幅が広がった」といった感想があり、一方の参加企業からは「学生の生の声を聴け、今後の当社としてやるべき事を考える良い機会だった」という声が聞かれ、参加学生だけでなく、参加企業にとっても貴重な機会となりました。



医療、福祉

愛さんさんビレッジ 株式会社

〒986-0856 石巻市大街道南4-6-20 TEL:0225-90-4243 FAX:0225-90-4214
URL: <https://aisansan-group.jp/>



代表者 小尾 勝吉
代表取締役

資本金 2,000万円

創立・設立 2013年

受賞歴
2017年12月 経済産業省「地域未来牽引企業」選出
2018年2月 復興庁「新しい東北」復興・創生顕彰
2019年7月 経済産業省「健康経営優良法人」認定
2019年9月 公益財団法人介護労働安定センター「優良事業所」認定



事業内容

役割をもって生きる大切さ

愛さんさんグループはパート・アルバイト含め総勢124名の会社です。そして主に9つの事業を展開しています。単に事業を拡大したいのではなく、村づくりを通じて「社会的弱者」という言葉のない世界を創っていく為です。社会課題を事業を通じて解決する為の事業内容として、以下を行っています。

- ・有料老人ホーム事業
- ・リハビリ特化型デイサービス
- ・予防訪問介護
- ・居宅介護(介護保険申請相談等)
- ・ご高齢者向け宅食サービス事業
- ・障がい者就労継続支援A型・B型・移行支援事業
- ・介護職員初任者研修取得の為の「福祉人材養成学院」の運営
- ・障がい者向けグループホーム
- ・高付加価値産業化事業

特に障がい者就労支援事業では働くことを通して「自分の役割をみつける」手助けをすることで、これまで多くの自立をサポートし実現してきました。高齢福祉事業においても、利用者の方に花壇委員や衛生委員等の役割をお願いしています。そして、単なるお預かり型の介護ではなく、リハビリの先にある夢を叶える科学的な根拠に基づいた取り組みによって、ADLや介護度が改善されております。

将来ビジョン

生きづらさを感じない村づくり

地域課題を事業で解決することの延長線として、最終的に社会的弱者といわれる人たちが暮らしやすい「村」を創ることがビジョンです。障がいをもっている人、シングルマザーで子育てが大変な人など、社会で生きづらさを感じている人が、衣食住に困らない幸せな「村」を創造したいと考えています。第一歩として新設の「保育園」と、近所の人やご家族が集まる「カフェ&レストラン」が石巻市の施設隣に完成する予定です。また学校帰りの子ども達が集まる駄菓子屋も設けたいと考えています。私たちがつくる「村」では待機児童など社会問題をいち早く解決し、住人が住みやすい環境をともに創造したいと考えています。住人同士が互いに助け合う場合は、安心、安全に暮らせることに繋がると考えています。暮らしの中で障がい・難病を持っている人が役割を見出し働く、そして自分の「生」と向き合う時間をみんなで分かち合える環境が理想です。

福祉に変革を起こすソーシャルベンチャー



小尾 勝吉
代表取締役

始まりはボランティアから

2011年3月11日に発生した東日本大震災後に創設された会社です。そのルーツは小尾勝吉代表取締役が住んでいた神奈川県から、ボランティアとして被災地を訪れたことから始まりました。自らの貯金を使い、仮設住宅に住む被災者に食事を提供、民家の清掃、側溝の泥かきなどを行ったそうです。そして仮設住宅などに高齢者向けのお弁当を提供する事業を始めたことが現在に至る全ての第一歩でした。会社には「生まれてきてよかった」と思ってもらいたいという、小尾代

表の強い思いが事業に込められています。それは最愛の母が闘病している辛そうな姿を一番近くで見守り感じた、無力感や親孝行しきれなかった悔しい思いが根底にあります。働くに働けない人たちの働く場所をつくることを目的に創業された愛さんさんビレッジは、2015年12月財団法人KIBOW「社会的インパクト投資ファンド」第一号出資を筆頭にさまざまな賞を受賞しています。

採用情報

※直近の採用人数

2017年	0名
2018年	0名
2019年	1名

求める人物像

他人のおかげと常に考えられる人

愛さんさんグループは、「村づくり」と称して社会的弱者をなくすモットーを掲げています。なので私たちが求める人材像は新しいことにも果敢に進んでチャレンジしてくれる「素直な人」です。介護の知識や特別な技術は求めています。大切なのは経営理念「働く仲間の物心共に豊かな人生の実現と自立支援を通して、生まれてきてよかったを作り続けること」に共感し、「家族愛・親孝行」の価値観をともに分かち合ってくれるかだと思っています。やりたいことを決めるのは難しいことです。だからこそ、やりたいことが決まっていな人を歓迎しています。やりたいことが出来たら、企画として社内で立ち上げれば良いと考えているからです。困っている人がいたら手を差し伸べること、愛さんさんグループで働く人たちは、それが善意ではなく「当たり前である」と思える人材ばかりです。私たちが掲げるビジョンを高く見据えてくれる、志高き人材を求めています。



お子さんと抱き合う小尾社長

ポイント

- 新しいことにも果敢に進んでチャレンジしてくれる「素直な人」
- 掲げるビジョンを高く見据えてくれる、志高き人材

WISE記者の
企業体験記

みんなが明るく楽しい雰囲気

有料老人ホーム「愛さんさんビレッジ」の施設内を見学させていただきました。中へ入ると、職員と利用者の元気な声がフロア中に響いていました。室内には、日常生活の動作を訓練するための機械がたくさんあります。人々が日常の動作ができなくなってしまう原因の一つに、やり方を忘れてしまうという理由があるといわれているそうです。施設では、忘れてしまった動作を思い出させるトレーニングを行っていました。お風呂の浴槽に入る動作や洗濯物を干す動作を再現した機械などがあり、日常生活を送る上で必要な体の動きを訓練しています。

また、利用者にはそれぞれの役割が分担されていました。DIY 委員や花壇委員など、一人ひとりの特性に合った役割を担うことで、人の役に立つことを実感できるのだと思いました。愛さんさんグループが大切にしている「生かしあい」の考え方を感ぜられる場所です。

愛さんさんビレッジは、体に悩みを抱える人や障がいをもつ人が利用している施設ですが、明るく楽しい雰囲気で包まれています。元気にトレーニングに取り組む姿や、そのサポートをする職員は活き活きとした様子でした。このような雰囲気づくりも愛さんさんグループの特徴であり、大きな魅力であると感じます。

今回見学させていただき、私の中で福祉のイメージが180度変わりました。愛さんさんグループに関わる皆さんの思いが多くのの方々へ広まってほしいと願っています。



ここが
知りたい

「愛さんさん」という社名に込められた想い

人々の「生まれてきてよかった」を創り続けることを目的とし、働く仲間とお客様とその家族、地域が豊かになることを実現しようと全体で取り組んでいる愛さんさんグループですが、その社名についてお話を伺いました。

名付けられたきっかけは、誰でも輝ける場所をつくりたいという社長の思いだそうです。

利用者一人ひとりに役割があり、自立支援を通して人の役に立つことを実感することができる場であると感じられます。まさに「I sun sun」、皆が太陽のように輝く姿を伺うことができました。

福祉のイメージを良くしたいという社長の思いは、働く人や利用者からも伝わってきました。2020年にオープン予定の愛さんさんビレッジでは、入居者、地域の人、職員が一目ではわからないような世界を目指しているそう

です。

「愛さんさん」には「みんなが太陽のように相手を思い合える世界になってほしい」という願いが込められています。



働く仲間と愛さんさん

先輩の
声

目標をもって、チャレンジできる職場です



齋藤 豊さん
障害福祉部門責任者

現在は、こんなに楽しい仕事はないと思えるほど楽しく働いています。入社してから3年間は辛いこともたくさんありました。しかし、障がいを持つ人との関わりから、よくなって欲しいという思いが強くなり、やめないことにつながったのだと思います。

入社したきっかけは、前職の不動産会社を辞め、数か月間の旅から帰ってきて、求人票を見たとき、直感的にここにしようと思い応募しました。また、私には障がいを持つ姉がいます。その姉が自立していく姿をいちばん近くで見ていたので、障がいを持つ方のために何かをやりたいという思いがずっとありました。

仕事をする中で、難しい課題にぶつかったとしても、どうやったらうまくいくのかを常に考えることで、できないことをなくしています。職員同士で、わからないことを隠さず、助け合うことも当たり前のように行っているため、団結力は日々強くなっていると思いますね。

「愛さんさんグループ」では自分の夢についてじっくりと考える機会があります。自分と向き合うことで本当にやりたいことが明確になるので、目標をもって働くことができます。自分がやりたいことに本気でチャレンジできる職場だと感じています。

齋藤さんの1日

8:00	入社
8:30	朝礼 職員のミーティング
9:00	事務作業
10:00	クルーの方と朝礼
10:30	就労移行支援の授業を行う
12:00	昼休憩
13:00	打合せや会議で外出することが多い クルーとの面談
18:00	退社

仕事柄についてやってしまうこと

普段障がいを持つ方と接する機会が多く、日常で障がいを持つ子どもに対しても特別扱いせず、何気なく「今日の調子はどう?」と話しかけたり、騒いでいる子どもを見ると、「どうした?」という感じで、仕事と同じ調子で話してしまいます。

また、仕事では障がいを持つ方に対して目標を設定しますが、プライベートでも誰かに目標を設定してしまいがちです。例えば、友人に好きな人できたら、その人に対して1ヵ月以内に声をかけることを目標にさせたりしてしまいます。

記者紹介



東北学院大学 3年 高井 円香

今回の取材を経て人の「死に方」と「生き方」を追求する代表の小尾さんの考え方は私にとって新しいもので、誰もが定めとして経験することなので勉強になりました。日常生活でも社会的弱者と呼ばれる方々を見かける機会はあると思います。誰でもその立場になり得るということを忘れずに、困っている人に自然と手を差し伸べられる世の中になればいいなと思います。



東北福祉大学 3年 菅原 奈央

代表の小尾さんや職員の齋藤さんのお話から、将来の夢や目標を常に考えて働くことができる職場であると感じました。職員さん同士のチームワークも良く、助け合える環境であることがわかり、私もそのような環境で働きたいと思いました。また施設を見学させていただいたことで、現場の雰囲気を体感することができ、福祉に関わる仕事について考えることができた時間となりました。

宿泊業、飲食サービス業

有限会社 奥州秋保温泉 蘭亭

〒982-0241 仙台市太白区秋保町湯元字木戸保7-1 TEL:022-397-1515 FAX:022-397-1513
URL: <http://www.akiu-rantei.com>



代表者 菅原 幸子
代表取締役社長

資本金 3,000万円

創立・設立 1995年



人にやさしいハートフルな宿



阿久津 守
総支配人

蘭の花のようにつつましくいたい

企業の特徴は、サービス業であるため「おもてなし」に力を入れていることです。蘭亭では「蘭の花のようにつつましく、お客様を癒す存在でありたい」という企業理念を掲げています。この理念には蘭の花のように見返りを求めず、お客様を癒し、和ませる存在でありたいという願いが込められているとのこと。その理念に恥じない行動をするためにも、私たちは常にお客様にリラックスしていただけるような環境づくりを心掛けているそうです。

館内施設の特徴としては、全国的にも珍しい「畳風呂」を設けていて、一年中を通して床が暖かく、滑りにくく転んでもケガをしにくい安心なお風呂となっています。夏季はプールも開き、老若男女問わずくつろげる場となっているとのこと。また、「ウェルカムベビーのお宿」として、「ミキハウス子育て総研」から設備などのハード面、接客サービスなどのソフト面で小さな子ども連れが安心して利用できる施設として認定されているそうです。

採用情報

※直近の採用人数

2017年	0名
2018年	2名
2019年	6名

事業内容

どのようなお客様にも、満足してもらうために

蘭亭では、新生児からの受け入れが可能な優しい造りとなっています。具体的には「COCO BERRY」という優待会員制クラブがあり、そのクラブに入会することにより、受けられるサービスが多数あります。例えば、「COCO *スマイルプラン」という宿泊プランがあり、食事が個室会食場または客室で召し上がることができます。大勢が集まる会場で食事をする、ほかの宿泊客に迷惑をかけてしまわないか不安というお客様におすすめです。また他の旅館のように別棟がないため館内の移動がしやすく、お年寄りでも利用しやすい旅館となっています。そのため家族三代でお祝いの際に、利用したいお客様でも気軽に宿泊できるサービスを提供しています。今後は現在までの古き良き文化を尊重しながら、IT化も進めていき、よりお客様に快適に過ごしていただけるようなおもてなしを提供できる旅館を目指しています。

将来ビジョン

旅館のいい所を残しつつ、ホテルのいい所を取り入れていく

今後の蘭亭の将来的なビジョンとしては、旅館のいい所を残しつつ、ホテルのいい所を取り入れていくことが最終的な目標です。旅館はもともと個人オーナーが多く、昔ながらの古き良き文化を大切にしてきたため古い考え方の旅館が多いです。そのため表面上では見えない仕事も多くあり、どうしても無駄が多く出てしまいます。現在はまだIT化が進み切っていないことが課題となっています。例えば現在の館内での連絡手段はポケベルで、内線の連絡もすべてポケベルで行っています。そのため効率的に業務連絡を取れるように従業員それぞれがスマホを持つことにより作業の効率化を図っていきます。他にも将来的には蘭亭にかかわるすべての人に幸せになってもらうことを目標と掲げています。そのため、サービスをより充実させることにより、旅館の最大の魅力であるおもてなしを向上させていきます。

求める人物像

実力・能力主義への改革、向上心のある方

蘭亭が求める人材として大きく掲げられているのは、「接客が好きで積極的に動くことのできるチャレンジ精神旺盛な人」です。具体的には失敗しても、次に生かそうというプラス思考な姿勢を持っている素直な人。自ら目標設定を行い、大きな課題にぶつかっても逃げ出さずに、改善策を見つけられる前向きな精神の人。そして自己利益のためだけではなく、お互いの意見やお互いの長所を尊重し受け入れ感謝しあうことができ、なおかつ人に熱くなれるような関係を築き、素直に相手の意見を取り入れることのできる一生懸命な人です。蘭亭は今後改革していき、実力主義の企業にしていきたいと考えています。そのような中でも常に向上心を持ち、真剣に仕事に業務に取り組んでくれる人を求めています。また現在は日本人の人口減少に伴い、人手不足解消のため、海外からのインターンシップ生や留学生の受け入れを積極的に行っています。



客室でのお食事も快適に

ポイント

- 接客が好きな人
- 人とかがわることが好きな人（年代を問わず）
- 自分の仕事に誇りを持ち、積極的に仕事に励んでくれる人

WISE記者の
企業体験記

非常に丁寧な接客姿勢

奥州秋保温泉蘭亭は仙台の奥座敷、自然豊かな「秋保温泉」にあり、県外や国外の方も多く訪れています。私が蘭亭を訪ねたのは今回が初めてでしたが、まず驚いたのは接客姿勢です。今回私は蘭亭までの道のりをタケヤ交通のバスを利用していきました。到着した際には降りてすぐのところで接客担当の方が待機しており、宿泊する方を迎えていました。チェックインの際にはお客様の荷物を邪魔にならないように配慮しながら、預かっていました。取材の際にも総支配人の阿久津さんが、シティホテルで働いていた当時の話から現在に至るまでの体験や、これからの蘭亭の営業方針案について詳しく質問に答えてくださりました。取材に行くまでは旅館とホテルの違いについてあまり理解しておらず、洋風か和風かの違いだけだと思っていました。ですが総支配人の阿久津さんのお話を聞いたことにより旅館についての捉え方が変わりました。また、取材後に館内を案内してもらった際にバス時間の関係でそれぞれの部屋の紹介の時間が短くなってしまいました。そのため後半が急ぎ足になってしまったのですが、おすすめのスポットをそれぞれ丁寧に紹介して下さいました。今回取材として蘭亭にお邪魔させて頂き、従業員の方は皆さん優しく接してくださりとでも感謝しています。次回お邪魔する際には、取材ではなく是非宿泊したいと思うほど素晴らしい旅館でした。今回はお忙しい中取材にご協力いただきありがとうございます。



ここが知りたい 上下関係の悩みを抱えることなく、快適な業務を

蘭亭には職場まで徒歩1分の位置に社員寮があります。他の旅館や会社の社員寮は大体相部屋が多く、プライベートの時間が持たないという悩みを抱える人も多いのですが、蘭亭の寮は完全個室となっています。また、個室の場合、同僚や先輩方とコミュニケーションをとる機会がなくなってしまうのではないかと心配をする人もいますが、蘭亭には「ブラザー・シスター制度」という制度があります。この制度は新入社員と同じ部署の先輩社員を兄、姉に見立てて新入社員一人ひとりの仕事の進め方・心構えを指導したり、業務や社会生活の不安や悩みに対しアドバイスを行う制度の事です。この制度により、不安なことや悩みを抱え込むことなく解消することができます。



お風呂でも至福の時間を過ごしたいあなたへ

人間関係のほかにも、浴場にここでしか体験できないおすすめスポットがあります。それは「畳風呂」です。畳風呂とは蘭亭の大浴場の中に設置してあるお風呂で、床が畳張りになっているお風呂です。ご高齢の方、お身体の不自由な方、小さなお子様にも安心して足元がふんわり温かいと好評です。また露天風呂の方にも畳が敷いてあるため、夜ゆっくりお風呂につかる際やくつろぎたい人は、畳の上で寝転ぶこともおすすめです。他にも夏場には外にあるプールで遊ぶこともできるため、小さなお子様でも退屈することなく飽きない時間を楽しむことができます。他にもお風呂内のアメニティも充実しているため、わざわざ自宅から持ってきたり、購入する手間を省くことができます。

先輩の 声

常に目標を立てて、計画的に



伊藤 正治さん
接客部

主な業務は接客ですが、人材管理や現場管理の仕事も担っています。もともとは宿泊業とはあまりかかわりのない不動産業に携わっていましたが、社長からの勧誘を受け3年前に蘭亭にきました。最初は旅館の業務に慣れずあまりピンとこないことも多くありました。また、旅館ということでもどうしても年長者が多く、コミュニケーションやその場の雰囲気を感じるが大変でした。私自身、もともとどんなに小さな小さなことでも目標を立てて進めていくことを心掛けていたため、物事について逆算して計画立てることができました。その結果、自然と業務にも慣れていくことが出来ました。この職に就いたことにより管理職という立場を始めて経験し、人を動かすことの難しさや人への業務の割り振り方などを学びました。管理職に就いたことにより、全体を見渡す視野が広がり、責任感が強くなりました。この仕事をしていてよかったと思う瞬間は、お客様が喜んでくださるときはもちろん、自分で立てた目標を達成できた時や他部署との連携が取れた瞬間は特によかったと感じます。また、人と話すことが好きな人はお客様以外にも、あまり関わりのなかった年代のスタッフとも知り合える機会なのでおすすめですよ。少しでもこの紹介を見て興味を抱いていただけたら嬉しいです。

伊藤さんの1日

午後から出勤の日の場合	
13:00	出勤（ミーティング）
14:00	チェックイン準備開始、宴会（少人数、修学旅行の受け入れなど）の準備
14:30～16:30	お客様のご到着次第、30分ごとにお客様のお出迎え、お客様への挨拶
17:00	お料理、宴会場のセット
18:00	お食事開始
20:00	片付け、お客様のお見送り、ミーティング
21:00	退勤

仕事柄についてやってしまうこと

私が仕事柄についてやってしまうことは、人の観察です。業務の際は常にお客様にリラックスして頂くべく安らぎの空間を提供しています。そのためお客様の行動の癖などを見逃さないように気を配っています。蘭亭での業務が無い普段の休日でも、つつい周りの人を観察してしまうことが癖になりつつあります。また、私自身のももとの癖でもあるのですが何をするときでも常に目標を立てて行動してしまいます。小さなことから重要なことまで常に計画を立てて行動しています。

記者紹介



尚絅学院大学 2年 佐藤 千智

近年では留学生の受け入れを積極的に行っていると聞き、日本の文化や古き良き魅力を日本国内にとどまらず、国外へと発信する良いきっかけ作りの場になっていると感じました。また、旅館はおもてなしを大切にしており、お客様が少しでもリラックスできる場所を提供することを目標にしていると、はじめて知りました。お客様が一番喜ぶおもてなしを提供することは心配りが重要なため、大事な仕事であると感じました。



宮城学院女子大学 2年 熊谷 未来

幅広い年齢層のお客様に、不自由なく宿泊してもらうために、たくさんのお客様の方がそれぞれの役割を担って働いています。お客様へのサービスの質にこだわり、常に周りに気を配って柔軟に対応している姿を拝見しました。後輩に対しての指導もしっかりしていることが伝わったし、海外からも従業員を受け入れていました。取材に伺った際には、ホテルと旅館との違いも教えていただき、改めて蘭亭の魅力を感じることができました。



東北工業大学 2年 穴戸 雅美

奥州秋保温泉 蘭亭さん取材させていただいた中で特に印象に残ったことがあります。「IT化」という言葉です。「古き良き日本の旅館」というイメージが強く残る中、スマートフォンやインターネットを有効に活用したIT化を進めていきたいというお話を伺い、阿久津総支配人の向上心に感慨を覚えました。蘭亭さんの温かい雰囲気や阿久津総支配人の優しさに心奪われながら、非常に有意義な経験をさせていただきました。ありがとうございました。

情報通信業

アンデックス 株式会社

〒980-0804 仙台市青葉区大町1丁目3-2 仙台MDビル5階 TEL:022-397-7988 FAX:022-397-7989
URL: www.and-ex.co.jp



代表者 三嶋 順
代表取締役

資本金 600万円

創立・設立 2009年

受賞歴 2017年3月 第3回ビジネスモデル発見&発表会 全国大会農林水産賞
2018年10月 ニッポン事業構想大賞特別賞



常に進化するサービスを提供



菊地 忍
営業部長

企業規模に縛られない環境

社員のうち半数はプログラム事業に参画し、他社と手を組んでWEB作成やシステム開発に取り組んでいます。もう半数は開発業務を担っているそうです。部署別で言うと、ソフトウェア事業、スマートフォン開発事業、オープンソフト・デジタルコンテンツ事業の3つ。社内は常に明るい雰囲気、笑顔が絶えないそうです。社員数は50人と小規模ですが、手掛ける事業は全国展開するなど、企業規模に縛られない仕事ができるとのこと。いわゆるベンチャー企業なので、プログラミングの

技術だけではなく、アイデアで勝負していく点も特徴です。企画が受け入れられれば、ソフトバンクやドコモなどの大手企業と提携して自分の作ったアプリケーションを仙台から発信することもできます。たとえプログラミングの技術を持っていないくても、研修期間をしっかり設けていますし、努力次第で成果を出せます。そういう意味では誰に対してもウェルカムと言えるのが特色です。

採用情報

※直近の採用人数

2017年	2名
2018年	3名
2019年	3名

事業内容

追い風吹くIT業界で人間力を発揮する

IT企業が首都圏に集中する中、地方のIT企業として精力的なコンテンツ開発に励んでいます。自治体や企業のシステム制作のみならず、東日本大震災後は大きな被害を受けた水産業に注目し、水産×ITをキーワードに水温などの海洋データを随時確認できるITアプリを発表しました。主に松島湾周辺で活用されているそうです。また仙台地域の観光振興のためマップコミュニケーションツール「マップコミ」を開発。観光だけでなく防災面でも生かせるアプリとして「ITS防災アプリアワード」など数々の賞を受賞しました。この他にも子育て支援アプリやオープンキャンパスアプリなど多くのジャンルで活用できるコンテンツを開発しています。地方のベンチャー企業だからこそ、地方に貢献することを使命として事業を展開しています。時には開発したコンテンツが大手IT企業に注目され、全国展開を達成することも。可能性は無限大です。

求める人物像

「自分が今何をしているのか」説明できる力を

当社は情報技術を多く扱う事業にもかかわらず、雇用に対しては文系理系問わず採用しています。なぜなら、今後の業界、環境の変化に対して技術力だけでなく、ヒューマンスキルと呼ばれる対人能力も重要視されるからです。AIの発達により、プログラミングなどの技術力だけでなく、AIには行うことができない、お客様のニーズを的確に理解できるヒアリング能力の需要が高まります。専門的な技術力、知識に関しては、入社後の研修などで身につけることができます。やる気さえあればバックアップは惜しみません。学生時代に皆さんには、ぜひ今のうちから「ほう・れん・そう（報・連・相）」の力を身につけてほしいです。この力が身についているか否かが、社会人と学生の違いかもしれません。「自分が今何をしているのか」を説明できる力を学生のうちに培えば、就職後も必ず役立つでしょう。

将来ビジョン

移り変わりが激しい業界だからこそ求められること

ソフトウェア業界は常に素早い進化が求められます。現在では請負などの外部のプロジェクト参加の他に、自社開発のアプリ事業も展開しています。例を挙げると水産×ITとしてスマホで海洋情報を確認できるICTアプリを開発し、取組をドコモと共に全国展開しました。従来の考えにとらわれない発想力を持って地元貢献し、提携することが求められます。10年程前まで「人だしビジネス」と呼ばれる、請負や出向の仕事がほとんどだった中、とりまく環境の変化に対応すべく、イノベーションを行った結果が現在の事業につながっています。今後ますます変化していく業界の中で、未来年表によると、2035年以降のIT人材不足も予測されています。ソフトウェア会社として生き残るために、業界の変化に対応できる力を持った人材の育成をしていきます。



コミュニケーションは欠かせない

ポイント

- 学生時代に「ほう・れん・そう（報・連・相）」の力を身につける

WISE記者の
企業体験記

アプリを紹介していただいて

スマートフォンの開発事業としてアプリを開発されているということで、ご紹介いただきました。仙台市の子育て支援アプリ「まちのび」は、休日当番医や予防接種情報といった市政情報を見ることができるだけでなく、親子で楽しめるイベント情報や公園・テーマパークなどのレジャー情報、子どもと一緒にでも行きやすいお店を掲載しています。また、ママライターが書いたコラムは、季節に合わせた行事の体験談や料理のレシピ紹介など、すぐに使える役立つ情報や、育児で困ったときに相談できる機能もあるそうです。実際に使ってみました。イベント情報には、大型家具店や八木山動物公園でのイベント情報が掲載されており、普段育児で忙しい人たちにとっては、とても便利だと思います。また、お悩み相談ということで、同じような悩み事を共有したりすることもできます。

また「アンドナビ」という現在開発中のアプリもご紹介いただきました。電気（EV）自動車が地域内を巡回し、タクシーやバスにかわって、高齢者の足となり、自宅から最寄りのバス停まで輸送するシステムの様です。自由に動けない高齢者にとっては短い距離も大変かと思いますが、このシステムを使って自宅から最寄りのバス停までの短い距離の往來ができるようになれば、街も活気づいていくのではないかと思います。



ここが 知りたい 水産×IT

IT企業のアンデックスと水産業がイメージ的に結びつかなかったの聞いてみました。東日本大震災の後、海の変化が大きく、それまで獲れていた魚が獲れなくなったり、逆にそれまで獲れなかった魚が獲れたり、漁師が長年培ってきた経験や勘が生かせない状況が続いていたそうです。その原因を探ろうにも、漁場の状況は漁師の経験や勘といった主観に頼っていた部分が多く、分析が困難だったそうです。そのため、漁師からは、「自分の漁場のデータを取得することで作業環境を知りたい」「養殖漁場の栄養状態などを知ることで病気への対策をしたい」といった声が聞かれ、漁師自身も海の情報のデータ化、データ活用の必要性を実感していたそうです。こうした問題を解決するために、アンデックスでは、平成26年度から、松島湾近海を漁場とする宮城県南部漁業士会の漁師の方々、公立

はこだて未来大学の和田雅昭教授などの協力の下、水産業の問題をITで解決すべく、「水産×IT」事業として水産業へのIT活用推進に取り組み始めたそうです。本事業では、漁師が欲している漁場の水温の測定を行い、漁師が漁業に活かせる形に整形（スマートフォン向けアプリケーション化）し、提供を行っています。また、海苔の食育のためのアプリケーションや、競りのための情報共有システムなど、海の世界把握、漁師の漁業支援だけではなく、水産業の支援・活性化の取り組みも行っているそうです。現在は「主に松島湾周辺海域で牡蠣養殖と海苔養殖を対象に活動を行っていますが、将来的には宮城の水産業の全てを対象に行い、水産業そのものを盛り上げたいと考えている」そうです。こうしたアンデックスでの取り組みは、ITによる日本の水産業活性化に繋がるかもしれません。

先輩の 声

「何をするか」だけではなく「誰と出会うか」も



濱崎 龍威さん
ITソリューション部

小さい頃からパソコンに触れるうちに自然とWebサイトのデザインに興味を持ちました。「どのようにできているのだろう」とか「どうすれば綺麗なデザインに仕上がるのだろう」とってことを考えていましたね。大学は情報系の学部に入りました。授業ではWebデザインやゲーム制作をしました。メディアに関わるプログラミングを学ぶ中で「ものづくりに携わりたい」という気持ちが大きくなったんです。だからアンデックスに入社を決めました。ものづくりに対する自分の想いと社風が合うだけでなく、何より大好きなWebで力を発揮できる会社だったので。今はまだ研修期間中ですが研修を通して自分が見えることと出来ることをしっかり捉えています。将来は自分の作ったものをたくさんの人に見てほしいです。就活生の皆さんは「何をするか」だけではなく「誰と出会うか」も考えてください。就活生も社会人も人と接する力が大事ですから。

濱崎さんの1日

8:45	出社 業務準備、掃除
9:00	朝礼、社内打ち合わせ（情報共有、アドバイス）
9:30	WEB更新・保守（画像やテキストの差し替え、デザインの修正）
12:00	昼休憩 外出が多い
13:00	提案資料作成
14:00	社外打ち合わせ（お客さまへ提案資料についての説明や要望を聞いたりする）
16:00	打ち合わせ内容まとめ業務完了報告、掃除
18:00	退社

仕事柄つついやってしまうこと

社内で作業することが多く、1年目ということもあり、電話対応をする機会が多いので、敬語を使用します。上司やトレーナーが近くにつき、OJTで研修がありましたが、言葉遣いを直されることが多かったです。指導していただいた言葉遣いに慣れてしまったせいか、普段の生活においても敬語を使用してしまいます。例えば、美容室に行っても美容師さんとお話しをするときでも、自然と丁寧な言葉を使ってしまう。言葉遣いに関しては、すっかり仕事に馴染んでしまいました。

記者紹介



東海大学 4年 猪股 修平

「東北の企業として東北のために働くのは当たり前」。菊地さんが力を込めて話していたことが印象に残っています。取材前は「IT企業といえば首都圏や近畿圏など大都市にあるもの」と思い込んでいた自分が恥ずかしくなりました。地方で地元のために働く。取材したアンデックスさんからは熱意が見えてきました。その意志が突っ立ったことを数々の受賞歴が物語っています。たとえ会社が東京や大阪といった大都市になくとも、地元のために働けば成果は出せる。アンデックスさんの取材では「地方の可能性」をひしひしと感じました。「必要なのはITやプログラミングの技術ではなく、ヒューマンスキル」とのこと。理系・文系は問われません。熱意や誠意を持って人と関わることができる学生さんは必見です。地方から全国へ発信できることはたくさんありますよ。



東北学院大学 2年 新関 萌恵

「地元企業として、大都市の企業と差別化するために地元の方々に貢献することは必要不可欠であり、そのためにセキュリティを上げ、安心できるサービスを提供することは最低条件だ」という話が心に残っています。また、プライバシーの保護の重要性や企業の在り方を優しくご教授頂きました。とても感謝しています。他者に対して親身に関わってくださるアンデックスさんでは多くのことを学べました。

建設業

岳南建設 株式会社 仙台支店

〒980-0013 仙台市青葉区花京院2丁目1-14 花京院ビルディング10F TEL:022-222-8561 FAX:022-263-8959
URL: <http://www.gakunan.co.jp>



代表者 渡瀬 和義
取締役支店長

資本金 3億6,400万円

創立・設立 1919年

受賞歴 2005年技術進歩賞
2011年技術開発賞
2013年技術開発賞



日本中の「当たり前」を守る 縁の下での力持ち



渡瀬 和義
取締役支店長

従業員みんなで繋いだ 100年

2019年で創業100年を迎えました。その歴史は、創業当時の電気がまだそれほど普及していなかった時代にまで遡ります。何年にもわたって続けているからこそ得られる、経験に基づいた確かな技術があります。今まで築いてきた多くの信頼と共に、電力インフラの構築・維持を担っている岳南建設株式会社は、電力インフラの安定供給するにあたり、社員一人ひとりの人材育成にも力を入れています。鉄塔を建てる作業や、電線をつなげる作業などのように、基本的に高所での

作業で危険を伴うとはいえ、全てを機械に任せるわけではなく、現場の作業員の手によって行われるそうです。人の手によって行われることだからこそ、徹底した研修制度によって社員の安全を守っているのです。

採用情報

※直近の採用人数

2017年	5名
2018年	2名
2019年	4名

事業内容

電気を守り 日々の生活を守る

全国規模で各電力会社とともに、送電線での電力インフラを守り、「電気はあってあたりまえ」を守る会社です。電気の通り道として送電線を建てることで、発電所で生まれた電気を長距離移動させ、広く供給できるようになるのです。同じ鉄塔の役割を果たすものであっても、環境を考慮するなど、さまざまな型の鉄塔が存在し、鉄塔を建てる工程も種類によって大きく異なるそうです。平地であれば、トラッククレーン等で組立て、狭い道しかないようなところでは、ヘリコプターを用いることもあるとのこと。落雷の影響を受けないように、落雷を地面に逃がす「電気の流れない線」も存在します。送電線は、目で見ただけでは気付くことができないさまざまな工夫がなされていて、電気は現場スタッフの丁寧な作業と、会社を支える事務所のサポートにより供給されているのです。

求める人物像

電気をつなぎ、人をつなぐ

送電線工事は、基礎・組立・架線工事などにおいて、専門的な技術及び知識が必要になります。「対話で繋ぐ仕事の輪」と言うように、現場スタッフがわかりやすく丁寧に指導しています。専門の技術・知識である上に、状況に合わせた幅広い対応力が求められるため、努力が必要な一方で、さまざまな分野を探索することができる面白い職業でもあります。この職業で働く者としては、研修を経て知識を吸収し、積極的に取り組む姿勢が求められます。広い視野で興味を持ち、向上心のある人を求めています。送電線工事の現場は高所での作業もあり、現場スタッフ一人ひとりが研修での技術を駆使しながら、連携して作業をしなくてはなりません。送電線は、その地域の人々の重要な電力インフラを当たり前の存在として、安定供給するという大きな役割を担っています。大きな役割を担っているということを誇りに思うだけでなく、責任感のもとに働くことも大切です。また、お客様と直接関わる機会も多いため、人と人とのつながりを広めるコミュニケーション能力も求められます。

将来ビジョン

チームワークで支える「あたりまえな生活」

今年創業100周年を迎えた当社が培うノウハウをもとに、全国規模で展開する送電線事業者として、技術力・施設の充実を図りたいです。また、各電力会社との信頼関係を強固なものにし、管理社員・協力会社を含め、信頼されるリーディングカンパニーを目指します。さらに送電線・鉄塔建設において、チームワークを重視する上でも、現場スタッフ一人ひとりの知識・技術の習得には力を入れています。入社から求めるスキルを段階制で設定し、徹底した研修制度を導入しています。現場の建設は住み込みで行うため、チーム力を発揮しながら個々の技術を生かして鉄塔建設を行います。知識吸収を個人に任せるのではなく、研修制度を定めて知識吸収の機会を与え、かつ新入社員皆で研修を行う事で、現場での実働の時には、知識と共に集団の団結する力もつくような人間力の育成にも努めていきたいです。



送電線工事の風景

ポイント

- コミュニケーション力を持っている人
- 視野を広く持っていて、向上心がある人

WISE記者の
企業体験記

当たり前が届く電気が当たり前であり続けるために

岳南建設の新入社員向けの会社説明を体験しました。「鉄塔はどのように組み立てられるのか」といった専門的な内容から、「鉄塔は、人々の生活の中にどう生かされているのか」などの、意外に知られていない所まで、わかりやすくまとめられていました。さらに、作業員の皆さんが現場で働き始めるため必要になる研修の様子や、長期の作業に伴う共同生活の様子も、知ることができました。新入社員が、働き始める前に知っておくべき仕組み・基本知識を伝えるだけでなく、社内イベント時の従業員が楽しく過ごしている様子なども見られ、会社の雰囲気の良さも感じられました。説明を受けた後に、私自身しっかり理解して記事を書けるようにと、用意していた質問にも答えて頂きました。その時に、実際に鉄塔に用いられている電線のサンプルを、間近で見せてもらいました。実物を近くで見ると想像を超える太さと大きさに、かなり驚かされました。作業中の写真だけを見ても、それぞれの部品の大きさは明らかに大きく、鉄塔と電線とを繋ぐ絶縁体の部品1つにおいても、人の5倍近くの大きさであるようでした。私が最も印象的だったのは、体系化された研修制度でした。新入社員に向けての指導体制がしっかりしているのは、高所での作業をする上で作業員の安全を保障することや、現代の生活に欠かせない電気の安定供給を、責任持って実現し続けるためなのだと感じました。



ここが知りたい 環境に合わせた鉄塔作り

送電線は、どれも同じもののように見えますが、作り方は大きく異なります。周辺の環境に応じて作り方を変えることで、周辺環境への影響を与えないようにしたり、険しい山中での建設作業なども可能にすることができます。建設が完了するまでには、土地の調査や設計から始まり、仮設工事・基礎工事・鉄塔組立工事・鉄塔間に電線を張る架線工事を経て、完成後の保守・点検へと繋がります。鉄塔の組立方法は環境に対応するために種類があり、トラッククレーンが入る平坦な土地の場合は、「トラッククレーン工法」で、入れない山岳地で小型なら「台棒工法」、大型なら「クライミングクレーン工法」とさまざまです。山中の建設作業の場面において、自然環境を変えてまで無理やり1つの工法での作業を貫くのではなく、自然に合わせて工法を変えて影響を最小限にしています。建設において工法が多様

な背景には、常に自然環境との共生が意識されていることが伝わりました。



建設作業中の様子

先輩の 声

社員を支え、会社を支える



福光 勲さん
業務課課長

私は総務・経理業務を中心に主に現場の人達のサポートをしています。現場で働く人達に何を要求されても常に対応できるように日頃から努めています。現場で作業をしている人たちが、会社の「技術」を担っているとすれば、総務・経理は「体力」の部分を担当していると考えています。日々の業務が会社をより強くしていると誇りを持って取り組んでいます。この仕事で一番の励みとなるのは現場の人達から感謝の言葉をもらうことです。私はキャリアを築く上で大切なのは、視野を広く持ち、興味をもって様々なことに取り組むことだと思っています。楽しいと思えることを待つのではなく、楽しさを仕事の中で見つけいくことが大切だと思います。それが長く働くために必要なことだと感じます。私はサポート役として、この会社の魅力を広く伝えていきたいと思っています。

福光さんの1日

8:00	出勤
8:00~12:00	書類、支払のチェック・承認 契約書の作成・チェック
12:00	昼休憩
13:00~18:00	会計データ、予算の作成・チェック・承認 問題点の抽出・是正
18:00	退勤

仕事柄について

待ち合わせ場所を決める際には、鉄塔自体を目印にして「〇〇幹線の〇番鉄塔のところ…」であったり、「〇〇さんが建てた鉄塔のところ」というように、送電線路名や鉄塔番号を用いて、場所を表わすことがよくあります。

記者紹介



宮城学院女子大学2年 熊谷 未来

取材の中で鉄塔を組み立てる計画段階から、設置完了までの一連の流れを知ることができました。細かく計算された設置計画に基づいて行われる、忠実な作業がそこにはありました。安心安全を提供することを前提にした鉄塔の設備は、様々な状況に対応し得る細かな工夫がなされていました。取材に対応して頂いた方々は、とても従業員思いなところが印象的で、日頃の社内の雰囲気の良い感じられました。

不動産業、物品賃貸業

クラシタス 株式会社

〒984-0015 仙台市若林区卸町1-2-6 TEL:022-232-5166 FAX:022-232-5167
URL: http://curasitasu.co.jp



代表者 廣中 聡
代表取締役社長

資本金 5,000万円

創立・設立 1990年

受賞歴 2018年度LIXILメンバーズコンテスト東北地区最優秀賞
※その他創業以来、北海道・東北の各種宗教団体（寺院・神社）から多くの感謝状を頂いている。



地域とのつながりを大切に



廣中 聡
代表取締役社長

これまでもこれからも、地域とのつながりを大切に

企業特色としては、建築業と不動産業を主に営んでいることです。具体的には一般住宅やマンションのリノベーション、社寺の新築や大改修工事などを行っています。また、中古住宅を買取り、リノベーションすることも人気となっています。クラシタス株式会社はもともと屋根事業から始まっているため、台風19号の被害にあった家の屋根の雨漏りについても見積りを立てたり手直しもしています。最近では、社会課題である高齢化に伴って、「暮らしケア会員」というクラシタス独自の暮

らしサポート事業サービスを行っています。例えば子どもたちが立ち上がった高齢者に向けて、草取りや電気交換等安心して暮らせることに力を入れていると廣中社長はお話くださいました。

採用情報

※直近の採用人数

2017年	4名
2018年	5名
2019年	6名

事業内容

若者にも高齢者にも喜ばれるリノベーションを目指して

クラシタスでは近年問題視されている「空き家」や、売却家屋のリノベーションにも力を入れていこうとしています。高齢化が年々進行しており、相続されない空き家も毎年増加しています。そのような空き家問題を解決すべく、リノベーションを施し、新築にはないヴィンテージ感を提供することで、最近では若者からの支持も増えてきています。リノベーションではもともとあるものを使うため、古い一軒家を生かすことができます。そのため近年は一つの文化になりつつあると言われていています。また、今ある家を高齢になってもより住みやすくするために、段差や手すりをつけ足す工事も行っています。若いころは元気で段差を難なく登れていても、高齢化によりお風呂場や玄関などのちょっとした段差もつらいというお客様向けにバリアフリーの空間を提供しています。

求める人物像

誰でも気兼ねなく挑戦できるような会社へ

クラシタスが求める人材像としては二つあります。一つ目は向上心を持つ人です。クラシタスでは各種資格を取得することを奨励しています。これで良いと現状に満足せずに常に成長を望んで欲しいからです。二つ目は素直な人です。仕事を教わる際に、教えられる人の好き嫌いによって、正論を言われていても素直に受け入れられない場合があります。そのような場合でも、物事をまっさらな気持ちで受け入れられる素直さを持っている人を求めています。現在当社に勤務している社員の中には、大学を卒業してから入社している社員も多く在籍していますし、高校を卒業してから入社してくる人達も多能工職人として勤務しています。また、最近では定年の年齢の引き上げを行ったり、転職してきた人の受け入れも積極的に行っています。業種ごとで研修制度をとっているため、大卒高卒関係なく上記の条件を満たしている人はぜひご連絡ください。

将来ビジョン

10年ビジョンを達成するために取り組んでいます

4年前に全社員を対象に、10年ビジョンに関する話し合いを実施しました。具体的には今後どのような会社にしていきたいのか、そのためにはどのように改革していけばよいかを話し合いました。その際に当社は地域の人々のおかげで成り立っており、その人たちの暮らしをより良くしていくべきという意見が出ました。当時取り組んでいた事業は、建築業が主なものでしたが、それは目的ではなく、手段だという意見になりました。その際に本気で取り組むべき事業定義は「地域・社会デザイン業」であるという意見でまとまりました。現在はその時に決めた10年ビジョンを実行するために、不動産の免許の取得・暮らしケア事業の開始・生前整理企業との提携を始めとしています。生前整理企業との提携の理由としては、住み慣れた自宅で最期まで暮らしたいというお客様の要望に、生涯に渡ったお付き合いが出来る関係をつくりたいという想いからです。



新人による多能工研修（研修スペースにて）

ポイント

- 向上心を持っている人
- 素直な人
- 入社後の資格取得も積極的に応援

WISE記者の
企業体験記

今後の事業拡大のために

クラシタスはもともと屋根事業から始まった企業であり、県内外に全部で9支店をもっています。現在はリフォーム、リノベーション事業に力を入れています。

また、クラシタスについてのお話を聞いている際にどの方にも共通して感じたのは、仕事への努力と誇りです。今回の取材では、私は廣中社長と佐藤主任に話を伺いましたが、廣中社長はこれまでの経験やクラシタスの魅力を伸ばしていくため、佐藤主任はこれからの企業の発展や、自身の成長のために日々尽力していました。

廣中社長は今後どのような会社になるかを明確にし、その目標を達成するための行動を起こしていることにより、社員も生き生きしているのではないかと思います。他にも新入社員が少しでも早く業務に慣れることができるように、研修制度や資格支援制度、また研修スペースを設けるなどの気配りをしていました。そのことから新人育成に力を入れていることがわかりました。佐藤主任は毎日自分の仕事を完璧にこなすことを目標としており、現状に満足せずに人の上に立てるような、マネジメントをしたいという目標を掲げていました。

今回取材に伺った仙台支店は立地に恵まれ、地下鉄東西線を降りて徒歩10分圏内にあり、方向音痴の私でも迷わずに無事たどり着くことができました。取材自体は2回に分けて行いましたが、取材が終わった後にも会社内部を詳しく紹介していただき、とても貴重な体験をすることができました。



ここが 知りたい 自分の将来のために有益 なことを身に付けられる

クラシタスでは、資格取得のための支援が十分に整えられています。クラシタスのような建築業をメインで行っている企業では、宅建士や建築士の資格を持っている人が重要視されています。また、会社に勤務しながら資格取得のために勉強をする、という形の取得方法もあり、日中は会社で働き、夜間の専門学校に通う人たちが一定数います。そのような資格取得を前向きに支援するべく、クラシタスでは資格取得支援制度を設けています。具体的には資格取得のために通った学校の学費や、検定料の7割を負担するという制度です。この制度により、社員の誰でも今後の自分の将来のために有益となる資格習得を積極的に行うことができます。

始まりから終わりまで、一つ の家で

現状ではあまり知られていませんが、家の中で一番多い危険場所は脱衣場だそうです。理由としては、暖かいリビング等から寒い脱衣所に移動して衣類を脱ぎ、急に温かい湯船に入ることで血圧を急上昇させて身体に大きな負担をかける「ヒートショック」を起こしてしまいます。それにより、心筋梗塞などにより結果として亡くなってしまう方もいます。現在ではその死亡率は交通事故の3倍にも及んでいるそうです。家という人が一番リラックスできるはずの空間で、亡くなってしまうという悲惨な現状を少しでも改善するために、クラシタスでは生活スペースの断熱効率を高めることを、特に高齢者にお勧めしています。昔の規定ではクリアーしていても、現在の居住環境の基準では暖かくないため、クラシタスではより快適な暮らしをしていただけるように、日々尽力しています。

先輩の 声

社内とお客様の架け橋のような存在になりたい



佐藤 竜太郎さん
仙南支店主任

私は入社してから5年間営業を担当しており、施工現場管理の業務も担っています。入社理由としては経営の仕事をしたと考えており、両親や兄弟が建築業界で働いている影響もあり、自分で考えて思うように仕事をできそうという自由度の高さからこの会社を選びました。営業は設計士や人と接する機会が多い職種であり、自社の社員ではない人ともコミュニケーションをしなくてははいけません。そのためさまざまな業務の「橋渡し」となるように、常に先読みをして行動すること、計画された段取り通り動くことが重要だとこの5年間で学びました。

また、お客様に喜んでもらえた時は「やっぱりこの仕事をしてよかった」と感じます。特に業種的にライバル社が多い中で、他社との違いでお喜びいただいた際や、一度施工をしたお客様から再びご利用いただいた際はうれしく感じます。他にも、アンケートを通して、名指しでコメントをいただいた際に自分自身を見てくれていることにいつも感謝しています。働く前はベテランの人も多い業界で、価値観の違いがあるのではないかと不安を持ちましたが、実際に働き始めてわかったことは、そのような人も、日々進化するデジタル社会に向け一緒に学んでいて、勉強することが多いのです。そのため仕事内容は確かにきついこともありますが、ぜひいろいろな業務に携わり仕事を好きになってほしいですね。

佐藤さんの1日

8:30	出勤
	ミーティング・朝礼
9:00～16:00	外出（訪問・提案・現場確認・商談）
12:00	昼休憩
16:00	次の日の準備、見積作成
19:00	退勤

※現場確認：実際に現場に赴き、自分の指示通りに作業が進行しているかの確認

仕事柄つついってしまうこと

私自身のこだわりに近いかもしれませんが、どのような業務も完璧に余裕を持って取り組むことを心がけています。仕事の状況やその時に抱えている案件の内容にもよりますが、できるだけその日のうちに仕事を片付けることを心がけており、先延ばしにならないように気を付けています。またお客様から依頼が来た際に、形のない要望と私達企業側の提案のギャップをどこまで埋められるかが力の見せ所となっているため、「相手の言葉を聞くこと」に気を付けています。

記者紹介



尚網学院大学2年 佐藤 千智

全ての取材に一人で行ったのは今回が初めてだったため、至らない点も多かったと思いますが、一つひとつの質問に親切に答えてくださりありがとうございました。建築業についても、新たに知ることができました。また、企業内でも作業の練習ができるように、専用のスペースを設けるなど新入社員でも、業務に慣れることができるような配慮がされている点に好感を抱きました。お忙しい中取材にご協力いただきありがとうございました。

情報通信業

東杜シーテック 株式会社

〒983-0047 仙台市宮城野区銀杏町31-24 TEL:022-354-1230 FAX:022-354-1991
URL: <http://www.tctec.co.jp/>



代表者 本田 光正
代表取締役

資本金 2,100万円

創立・設立 2002年

受賞歴 経済産業省2017年度「地域未来牽引企業」選出
情報セキュリティマネジメントシステム「ISO27001」認証取得



新技術を東北から世界へ



本田 光正
代表取締役

社員への思いやりから築く会社の姿

東杜シーテック 株式会社は、職場の良い環境づくりにこだわりを持っています。もともと学校だった建物にある本社は、広々として過ごしやすく、全体的に明るい印象です。さらに社員数が100名になったことで、新設された各拠点にもカラーがあり、その色で事業所内がまとめられています。開発という仕事を担っていることもあり、東北大学をはじめとした学術機関と密接に連携をとることで、最新技術に対し、より敏感になることができるよう心がけています。さらに仙台を拠点として

TOHOKUでのものづくりにこだわり、開発拠点としての地域貢献も目指しています。開発に携わる者として、おのおの活動範囲を広げて、その場ならではの要求に応じたIT技術の可能性に挑戦しています。最近では、震災復興支援の一環として漁業に焦点をあて、鮭の半自動雌雄選別装置を漁港に導入しました。

採用情報

※直近の採用人数

2017年	10名
2018年	6名
2019年	12名

事業内容

可能性から生まれる開発 開発が生む新たな未来

東北から生まれた先進技術と、経験から得たノウハウをもって、幅広くお客様の課題・要望にお応えします。「受託開発」は、それぞれ専門分野の知識を持つ社員が、丁寧に対応しています。「試作開発」においては、ソフトウェア資産を十分に生かして、迅速且つ的確に検証を行い、「共同開発」で依頼した企業と協力して互いの技術・知識を生かす事で、個々に行う開発とは別次元の「次につながる新たな可能性を秘めた開発」を創造します。また、「課題解決」では、さまざまな課題に対して検討から試作、実証まで対応するため、東北大学と連携。東北大学にある情報知能システム研究センターや、電気・通信・機械分野に関する約80の研究室との連携は、課題に対する対応力の質の向上と共に、大学・依頼主・東杜シーテックが、個々で確かな経験とノウハウを得ることに繋がっています。

求める人物像

社員としての自分を育てる

人との関わりを大切にできて、コミュニケーション能力がある人です。どんなに専門的知識が豊富であったとしても、その人一人で社内の仕事をこなすわけではありません。システム設計・開発と聞くと理系の人が向いているだろうと判断しがちですが、知識だけでは何も生まれません。専門的知識を発揮する人・発想力で開発に貢献する人・作業効率が良く的確に仕事をこなす人など、同じ目的・目標に向かって個々の能力が生かされることで事業は成立します。社内での交流に限らず、製作の傍らお客様対応も行うため、コミュニケーション能力が問われる場面がたくさんあります。さらに、組織の中で所属する部門が細かく分かれており、部門ごとに持っている知識も異なるため、社内に限定しても部門をまたぐだけで、吸収できる知識は多岐に及びます。そのため開発の面においていろいろな知見を持ち、自ら知ろうとする姿勢を持っていることが求められます。一人ひとりが会社の未来を担う一員であることを自覚し、協力して独自のものを生み出していこうという意志を持つことができる人材が必要です。

将来ビジョン

独自事業で東北にさらなる活力を

基幹事業であるシステム設計・開発において、よりクリエイティブな発想のもと、開発を活発に行いたい。東北大学協力のもと研究開発している中で、実際に大学へ従業員が通い、知識と技術を身に付けてもらっています。社員の知識・技術の向上を日々目指しつつ、より人を集めて志を同じくするスペシャリストの集団を築き上げたいと思っています。今まで無かったものを開発をする立場として、社会全体において技術の進歩を支える「柱」のような存在になることが目標です。社会に通用する技術を生み出すために、拠点を日本の中心地へ変えるのではなく、「東北生まれの先進技術」として、高度な技術を持って広く知れ渡るようなものにしたいですね。独自の事業をたくさん生み出していく事も目標であり、個々の技術を生かす事のできる環境を作ることで、実現につなげていきたいです。



見学の様子

ポイント

- コミュニケーション能力のある人
- 向上心・意欲のある人

WISE記者の
企業体験記

事業所が一体となったものづくり

本社に加えて新設された2つの事業所の見学と、魚の雌雄判別装置の体験をさせていただきました。新設の事業所2つのうち、1箇所は事業が始まる前の準備段階でした。学生の私が見学できる機会は滅多にないため、とても貴重な経験でした。お客様とは別の視点で社内の環境づくりの現場を拝見し、社員の一員になったような気分でした。もう一方の事業所では、すでに事業が始まっており、社内の色合いや雰囲気は穏やかな印象でした。社内のコルクボードには、行事の時などの写真も飾られており、社内の雰囲気の良さを感じられました。1階に作業スペース、2階にデスクワークができるスペースがあり、1階のスペースで体験させていただいたのが、漁業関係者向けに新たに開発された魚の雌雄判別装置です。タラなどのオスとメスの判別の難しい魚に対して、簡単に判別することができる機能を持つものです。機械を使う側はただ機械の電源を入れて、魚の体につけるだけなのに、数秒でオス・メスの判別ができていました。機械で可能になったこの判別も、漁港などの現場の声聞いていないと、気付くことのできない専門的な課題だと思います。判別が難しいものが誰にでも簡単にできるものになるのは、漁業関係者にとって、初体験の私が受けた衝撃の何倍もの衝撃を受けさせられるものなのではないかと感じました。多様な要望に対して寄り添って、実現まで繋げていくのは相当な苦労がある分、成し遂げたときには達成感がある仕事だということを学びました。



ここが 知りたい 社員の関係が 社内の雰囲気を作る

社内には部署が細かく分かれて存在しており、社内で部署をまたぐだけでも多くの刺激を受けることができます。そのため、積極的な社員間交流が、部門の垣根を超え盛んに行われているという特徴があります。月一回行われる交流会では、普段あまり接点のない社員との交流が行われます。季節に応じたイベントも盛んで、夏には屋上で花火を見ながらビアガーデンをしたり、秋には芋煮会など、社員が企画して開催するものもあります。忘年会や懇親会、社員旅行も会社負担で全て行っています。行事を行うことで、社員どうしの距離を縮め、部門を超えた協力態勢を築きやすくする効果を期待しているそうです。交流関係が偏ることなく、社内全体に及ぶことで、個々の課題解決だけでなく会社全体の団結力・結束力を強めることに繋がっているそうです。



社員交流スペース

社員を想い、会社を想う 社長の姿

社員が楽しみにしているものの一つに、社長自ら作ってくださるカレーライスがあります。社員の体を気遣った、社長特製のキノコたっぷりカレーです。カレーがいつ出てきてもいいように、ご飯を常備している社員もいるほど、会社恒例の人気イベントになっています。ランチの時間などに、社内の人たちが積極的に同じ時間を共有することで、団結力をより高めるためにも欠かせない大切な時間になっています。さらに社員の健康維持の面にも気を配っています。運動不足にならないように健康機器を設置したり、「禁煙援助金」として毎月2000円を禁煙者に支給するなどの工夫がなされています。その一方で、仕事の面ではとても頼れる存在です。『開発する者として、最新技術には常に敏感であってほしい』という社員に対する願いから、社用車は水素を燃料とする最新のものを導入。開発を行う立場として、視野を広めるきっかけとなる刺激を得ることは重要であり、その機会を積極的に提供することで、会社の活力増加に繋がっていると感じました。

先輩の 声

社員の一員としての自覚と言動・実践力



継田 尚哉さん
テクニカルセクション3

東北大学で超音波を用いた研究をしていました。仙台でのソフト開発を志望していましたが、開発部門において東北大学と連携した事業が行われているということもあり、就職しました。会社での作業は専門の知識の有無に関わらず、初めて体験するものが多いです。今は4K・8Kなどで耳にすることが多い映像編集ソフトを担当しています。ソフト開発だからといって、開発業務のみを行っているわけではありません。電話の対応など、お客様と直接関わる場面もたくさんあります。映像編集の仕事以外では、東北大学青木研究室に週1回通い、技術を習得しています。会社の一社員として働き始めるまでは、受け身で周りに流されて判断・行動していました。就職して仕事を始めてからは、開発に関しても、お客様の対応に関しても受け身ではなく、自ら行動するように変わることができました。会社という小さな社会の中でも、最も重要なのはコミュニケーション力・行動力であると思います。

継田さんの1日

9:00	出勤・朝礼
	メールチェック・1日のスケジュール確認
10:00	映像編集ソフトの開発
12:15	休憩・昼食
13:00	映像編集ソフトの開発
16:00	ミーティング
17:45	退勤

仕事柄についてやってしまうこと

映像関連ソフトを担当しているためか、日常生活の中でもフローチャートを書いたり、頭に浮かべてやるべきことの整理をしてしまうことがあります。また、4Kや8Kなどの映像関連のキーワードに反応したり、展示会があると気になってしまうことがあります。入社当初はAIの事業にも携わっていて、機械学習の話題になると、やっている内容よりもフレームワークや手法そのものが気になってしまいます。

記者紹介



宮城学院女子大学2年 熊谷 未来

デスクワーク部屋はカラフルで気持ち良い空間でした。新たな事業所にも、社員が話し合いやイベントを行えるスペースがありました。社員への気配りが、事業所を越えた社員の団結力の根底を支えていると思います。「作らせる・作られる」ではなく、「支える・みんなで創造する」という関係性を感じました。会社が、労働の場だけでなく同じ目標を持つチームとなる事が個々の能力を生かす開発・独自事業の創出に繋がると学びました。

製造業

株式会社 ねこまた

〒980-0811 仙台市青葉区一番町2-5-1 大野村ビル7F TEL:022-211-5072 FAX:022-211-5072
URL: <https://necomata.co.jp>



代表者 齋藤 昌秀
代表取締役 親方

資本金 300万円

創立・設立 2014年



町工場のような親しみやすさと、厚い信頼を目指して



齋藤 昌秀
代表取締役 親方

時代によって変わる要望にも答える開発

一つの領域に留まらず、幅広い分野での開発を行っています。科学技術の進歩による、新技術・機能に対する著しい移り変わりの波に柔軟に対応して、時代ごとに異なる需要に合わせた開発を積極的に行っているそうです。また、社員は若者が多く、新しいものに対し、より敏感に反応し吸収できる態勢が整っています。開発したものに對しては自信を持って提供できるように、テストを積極的に行っているとのこと。「プログラミングに付随したテスト」ではなく、「テストのために

プログラミングをする」という考え方に基づき、品質の向上にこだわり、会社の事業面のみならず、社員の置かれる職場環境も、社員がモチベーションを維持できるよう工夫をしているそうです。「一人で残業よりもみんなで分析」を心がけることで、一つの問題に対して、一人でパソコンと対面して得る個人能力の向上とは別に、協力する社員全体の技術・団結力向上に繋がられているようです。

採用情報

※直近の採用人数

2017年	4名
2018年	3名
2019年	3名

事業内容

新しいものを吸収し質の高い開発を追求する

スマートフォンやWEBシステムなどのアプリケーション開発をしており、センサーを利用したマイコンの試作器のプログラムの作成も行っています。今まで開発してきたものには「高齢者向け介護支援・リハビリ支援ゲーム」や、「衣装イルミネーションの開発」、「簡易センサーによる歩行計測」などがあります。取り扱っているものは幅広く、さまざまな分野において積極的に開発を行っています。「高齢者向け介護支援・リハビリ支援ゲーム」は、リハビリをより楽しくするために作られ、人の動きを感知して画面越しに球技ができるような機能になっているそうです。体の弱い高齢者が安全に体を動かせるには、大きな障害になっていた物理的な衝撃をうまく取り除く、新しい球技のあり方を提案するものです。現在は、さらにVRなどの新しい技術を活用することなどによって、より質の高い開発を常に目指しているそうです。

求める人物像

自分自身を築き続ける意欲

一つのことに限らずさまざまな分野・業界において開発の依頼を受け、対応している実績があります。幅広い対応力の裏には、社員の努力があります。受ける仕事毎に内容が大きく異なることがあり、必要な知識を収集して獲得しながらも、プログラミングをすることの繰り返しになります。プログラミングするにあたり、プログラミング言語も多様に存在します。そのため、日々の学習と経験の積み重ねが、必ずその人の仕事への対応力向上に繋がります。努力が必要な分、得られる知識も幅広いということが魅力でもあります。プログラミングでは常に、パソコンに向かって作業することになりますが、受ける依頼によって依頼者や多様な知識と、触れ合うことになります。一人ひとりの社員の努力とともに開発を行う上で、受け身で言われたことだけをこなすのではなく、自分自身に責任を持って働く人が求められます。仕事への責任ももちろん、その仕事を担う自分自身に、どんな仕事に対しても対応するねこまたの一社員として、責任・自覚を持つことができる人が求められます。

将来ビジョン

作る時代に合わせてより良い開発を

新しい技術を積極的に取り入れて、対応力をさらに向上させたいです。今まで通りに、幅広い分野で依頼を受けながらも、今までの経験の中で浮き出てきた自分たちの得意な分野に関して、特に力を入れていきたいですね。既に開発してあるものに関しては、新しい機械を活用しながらさらに発展させていきたいです。開発するにあたって、新しいことに挑戦する場面を増やすことで、社員一人ひとりのエンジニアとしての技術向上を目指していきたいと思います。職場環境に関しては、今すでに体系を整えてはいますが、今後も残業なしを続け、品質重視を基本とした体系を維持できるよう努めたいです。この会社がお客様にとって「わからなくなったら、とりあえずねこまたに行こう」と言ってもらえるような、身近に頼ることができる町工場のような存在になれるように、一つひとつの依頼に丁寧に対応していきたいと思っています。



職場はフリーアドレス

ポイント

- 自分に責任を持って働く人

WISE記者の
企業体験記

社員想いの環境づくり

ねこまたの社内は、大きく二つのスペースに分けられており、お客様をお通したり、社員同士一緒に食事をしたりできる自由なスペースと、デスクワークのできるスペースがありました。「開発」と聞くと長時間パソコンに向かい、個々で作業をしているイメージがあります。しかしそのイメージを覆すようにあったのは、壁一面のホワイトボードです。そのホワイトボードは、自由なスペースの方にありました。開発において、解決策の見当たらないような壁にぶつかった時、個々で長時間苦戦するのではなく、みんなで原因を分析する時に使うそうです。ホワイトボードの一面に残された、たくさんの数字や文字の跡が、難題を社員の皆さんで越えてきたことを物語っていました。勤務時間終了前には必ず、それぞれの進捗状況を報告し合う時間も設けられていて、会社全体で協力して取り組む姿勢が、社員にとってとてもいい環境作りに繋がっているように感じられます。実際、代表の方や社員の方々とお話しさせていただき受けた印象は、社員の方々と代表の方との距離が近く、一緒に頑張るチームのような良い関係性が見られたということです。その距離感の近さがあるからこそ、勤務時間も残業もなく社員の力を総結集した、より高品質の商品の提供が実現できているのだと感じました。職場環境を開発をしていく上で当たり前相談し合える関係性が社員同士で築かれていることもまた大切なことなのだと学びました。



ここが
知りたい

残業をなくし品質を高める

開発を主として行う会社において、一般的にあるイメージは、パソコンと向き合って長時間働く状態で、残業にもなりやすいように思います。残業は問題に対して迅速に対応でき、改善に対する意欲を持続したまま、集中して取り組むことができます。しかしその一方で、残業は問題が生じてから勢いで行われてしまうことが多く、問題に対して今後に生かすための分析が十分に行われないうまま、進んでしまうことがあります。ねこまたでは、この現状に焦点を当てて、さまざまに対策を行っています。一人で考えるのではなくみんなで考えるため、大きなホワイトボードを設置したり、席を自由にして開発内容に合わせて相談したい相手と自由に席を組み替えられるようにできたり、勤務時間の最後には必ずそれぞれの進捗状況を共有する時間を設定しています。これらの工

夫は、会社自体の団結力や対応力の強化のみならず、社員一人ひとりが、もしどこかで活躍することになった時に、この会社で必要な技術や知識を獲得して欲しいという、代表の想いが現れています。「社内から離ればもう関係ないのではなく、一人の技術者として認められるような人として、送り出すことができる場所としてありたい」という代表の思いが現れている工夫がなされています。



社内風景

先輩の
声

学びとともにある開発



一ノ関 恵莉菜さん
チーフプログラマー

私は学生の時に受けた授業がきっかけでプログラミングに興味を持ち、地元である仙台でプログラマーになることを目指すようになりました。今は、製造面でのプログラミングを行っています。幅広い仕事を受ける中で、多様なプログラミング言語を覚えることは特に大変です。扱うものが変わる毎に学び直さなければならず、苦勞することはありますが、その分成長した時の達成感はとても大きくやりがいを感じるの一つでもあります。この会社でみんなと協力しながら、開発をすることで、自分の考えを積極的に共有することができるようになりました。プログラミングは、ただ自分の思うように組めば良いのではなく、プログラム改善のための組み替え作業では、作成者の意図やお客様の要望に合わせた最善の形を作り合わせなくてはなりません。この仕事を通して、相手の立場になって考えることの大切さを学びました。お客様の要求をただ受けるのではなく、要求に隠れた本当にすべきことまで考えることが大切です。開発をするためには、新たに挑戦することも多いです。常に必要な知識を得ることが求められます。日々勉強をする習慣をつけることが大切です。私自身、今は教えてもらう立場から、教える立場になりつつあります。頼られるような存在になるために、必要な能力を身につけながら経験を重ねていきたいと思っています。

一ノ関さんの1日

9:00	出社
9:00~13:00	プログラミング
13:00~14:00	休憩
14:00~17:00	プログラミング
17:30~	進捗状況確認・相談
19:00	退社

仕事柄についてやってしまうこと

ソフトウェア開発には、欠かせない作業としてプログラミングがあります。プログラミングは、一度組み立てて終わりではありません。何の問題もなく機能するような手順を組むまで、試行錯誤を繰り返した分だけ何回も組み直すものです。そのため、いくつものプログラミングと向き合うとともに、どう構成すべきか試行錯誤する時間もたくさんあります。日常生活の中でも何かをするときに、ふと行動手順をプログラムの流れを組むのと同じように考えてしまうことがありますね。

記者紹介



宮城学院女子大学2年 熊谷 未来

ねこまたさんにお伺いして、一番印象的だったのは、社員に対する心遣いがさまざまな場面で見られたことです。会社のためということはもちろんですが、社員の職場環境をよくすることが会社自体をよくすることにも繋がるという考え方が、素晴らしいなと思いました。社内の席が自由席であることもまた、日によって異なる仕事に社員同士が連携して作業しやすくする、社員を中心とした会社内の雰囲気作りの工夫にもなっています。

学術研究、専門・技術サービス業

株式会社 ハシカンプラ

〒981-3133 仙台市泉区泉中央1-40-3 TEL:022-380-6370 FAX:022-380-6371
URL: <https://www.hashi-kp.co.jp/>



代表者 渡辺 元
代表取締役

資本金 1,000万円

創立・設立 2011年



橋梁・各種構造物の安全を守る



渡辺 元
代表取締役

必要不可欠な存在であるために

株式会社ハシカンプラは2011年の東日本大震災の直後に設立され、メイン業務である橋梁点検である、橋梁の「ハシ」、管理・監査の「カン」、プランニングの「プラ」を合わせ社名にしています。他にも、トンネル・港湾・鉄道・河川の樋門など、構造物の点検・調査が主な業務であり、建設コンサルタント企業として橋梁補修設計などを実施しています。社会資本の老朽化と東日本大震災の対応によって、建設産業の重要性が再認識されたそうです。

社会資本の維持管理が非常に重要であり、土木構造物点検・調査・診断を通して、社会インフラの更新期に寄与しています。国土交通省が行っている橋梁点検の特殊車両は扱いが難しく、専門の訓練を受けていないとなかなか使用できるものではありません。ハシカンプラでは、公共事業をメインに手掛けてきた経験と実績があり、点検に加え特殊車両の運転も対応しています。業務特化している事が企業の特色です。

採用情報

※直近の採用人数

2017年	3名
2018年	1名
2019年	0名

事業内容

技術力の高みへ

土木構造物の設計や調査を行っており、現場と室内業務が連携して保全業務にあたっています。社会のため、人のため、そして自分のためにできることの可能性を探求し、他より半歩先を行く企業として邁進しているそうです。20代・30代の社員が6割以上を占め、それぞれの技術や能力を活かしてやりがいを持って働いています。チームでの業務が主体となるため、お互いの意見交換は必須で、よく話し合っていることから自然と風通しのよい職場が作られているとのこと。入社したばかりの人でも、安心の充実した社内教育を整えているほか、やる気のある人材の成長を後押しするためキャリアアップ制度を設けており、高い専門知識を持つ社員が在籍し、業務をけん引しておりますので、先輩社員から学ぶ機会が多い職場で、ジョブ・トライアル制度も導入しており、インターンとして一定の期間を設けているそうです。

将来ビジョン

技術の発展を求めて

挑戦したいこととして二つあります。まず一つ目として、現在点検作業をメインに仕事をしていますが、これを踏まえて補修設計が重要視されてくると予想し、国土交通省の調査では、宮城県で補修が必要な橋は24カ所あるとされているため、実践的に取り組めるよう会社の足腰を強くして技術力向上させていきたいと考えています。二つ目としてはもっと遠い話で、海外に展開したいと考えています。東南アジア周辺に日本のODA(政府開発援助)が作った橋が30年、40年も経っています。いずれ日本のような経済発展が見込めると考え、その発展に携わることができたらいいです。また日本を訪れた外国の学生を雇用し、自分たちの仕事を学び育成をし、母国に帰国した際にその技術を活用していくことで外国で拠点を作りたいと考えているそうです。

求める人物像

この仕事に興味を持つこと

協調性があり、物事をコツコツと行える人材を求めています。仕事の内容が細かく、正確に行わなければならないことが重要であり、チームでの作業が基本となっているので、チームの和を乱さない人を求めています。仕事は同じ作業の繰り返しが多いため、例えば写真を撮る際に何十枚・何百枚とあり、整理するのが困難かつ飽きてしまうこともあります。そのような作業に、忍耐強く取り組める精神力と粘り強さのある人材を求めています。他にも、この仕事に興味を持っている人、今までに土木関係に触れていなくても、工学系の勉強をしてこなくても、仕事に対する熱意がある方は歓迎しています。すでに現在在籍している社員の中には、今の仕事とはかけ離れた専門を学んでいた人もいますが、熱心に取り組んでいます。



高所での作業(橋の点検・調整)

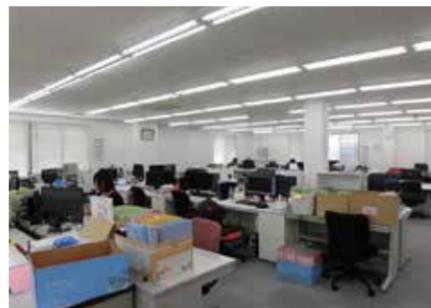
ポイント

- 協調性があり物事をコツコツと行える人
- チームの和を見出さない人

WISE記者の
企業体験記

取材を通して

今回、企業に取材に行くということが人生で初めてであり、行く前から緊張していました。大学の生活とはまた違って目上の人との会話、さらに敬語の使い方など改めて勉強させていただきました。取材時は、渡辺社長が未熟な私たちに気軽に話しかけていただき、こちらの緊張感が伝わってしまったのか優しく対応していただきました。また、自分が知らない業種に携わることによって、魅力ややりがいに触れることが出来、仕事に対する考え方や価値観も変わりました。取材している中でも特に、その仕事の内容一つひとつが細かいものであり、真面目に最後まで完璧にやる必要があるとおっしゃっていました。それを聞いたとき、中途半端に大学生活を送り、バイトをして帰るといった日常を毎日送っている私は、これから先仕事をするにあたって、やりがいも感じずにやめてしまふらうと痛感しました。また、自分が大学に何を学びに行っているのか、目標すらわからないまま生活していましたが、渡辺社長が何事にも興味を持つことが大切というお話を伺い、自分が少しでも興味を持ったことには挑戦していこうと思いました。そして、大学生である今の時期に自分の足りないところを改善し、社会人になるための成長をしていくことが必要なのだと感じました。



ここが
知りたい

スキルアップへの道

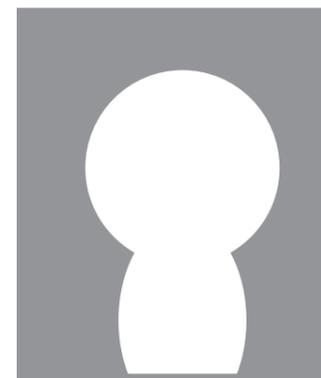
お客様に満足のいくサービスをご利用いただけるように、どのようなご依頼にも丁寧に対応しているため、仕事に対して前向きな気持ちで取り組める業種で働きたい人には最適です。スタッフが一丸となって仕事に意欲的に取り組むことで、質の高い調査点検を行うことを可能にし、お客様に喜んでいただけるサービスを提供しています。調査点検技術の高さとクオリティーの高さで、多くのお客様から厚い信頼を寄せていただき、日々さまざまな依頼を受けているので、職人としてスキルを磨きながら働きたい人にも最適です。「今あるものを大切に」という信念をもって仕事に取り組み、仕事を通じて成長していきたい方も満足してもらえると思います。キャリアアップ制度等も導入し、皆様の「成長したい」という想いを大切にしたい営業を行うことを心掛けております。



活気のある社内

先輩の 声

仕事に対するの責任感を勉強した



本間 未来さん
技術部

技術部で調書の作成をしています。内容としては、点検したメモ、写真を見ながらどんな橋梁なのか、損傷はどうかなどの状況確認を行い、調書に必要な写真をまとめ、図面を描き、調書を作成しています。調書作成をする際に、橋の点検時の事を鮮明に書き一つひとつの情報を丁寧に作成し、修正がないように仕上げることを重要視しています。実際に働く前の仕事のイメージは、「橋の点検」というイメージだけでしたが、実際点検に出ると、夏は暑い暑さと直射日光で汗と日焼けが酷く、冬は凍りつく寒さで、服の枚数は4~5枚で防寒対策を考え、高さのある橋は点検車が使えますが、低い橋はかがみながら作業をするのでとても大変な仕事でした。入社理由としては、土・日、休日休み、お盆休み、お正月、ボーナスがある、女性でも入社可能な会社であり、気付いたら4年も働いていました。この職場は環境・働いている社員共々良い場所であり、この会社ですべて働いていけたら良いと考えています。自分では理解出来ていると思い込んでしまったり、中途半端に仕事内容を覚え、間違えたまま作業を進めることも多くなり、手戻りも増えてしまいます。しかし、成長する為にも1つでも多くのことを習得する必要があります。

本間さんの1日

8:20	出勤
8:25	朝礼スタッフが全員出勤後ミーティング
8:30	調書の作成(メモなどを元に状況確認)
10:00	約15分間休憩
12:00~13:00	昼休み
13:00	調書の作成(CAD等使用し、図面作成)
15:00	約15分間休憩
17:30	就業終わり
19時まで	時間外就業 退社

仕事柄についてやってしまうこと

仕事内容が非常に細かく、一つひとつの作業を念入りにならないといけないところを「この辺でいいや」と妥協し中途半端な状態にしてしまうと、後から手直しが発生してしまったり、後々の作業に支障が出るので、「この辺でいいや」という考えは持たないように心掛けています。

記者紹介



東北工業大学 2年 鈴木 章太

今回株式会社ハシカンプラを取材して感じたのは、求める人物像のお話を踏まえ人間関係を重視してよりよい環境を社長自ら作り上げ、社員たちを大切にしてくれたのだと感じました。また、協力的かつチームワークのよさが身に染みて感じました。今回初めて取材というものをし、大学では学べない社会体験であり自分が日々運転している道路やトンネル・橋を整備されていると考えるとハシカンプラさんの仕事の重要性を認識しました。



宮城学院女子大学 2年 熊谷 未来

標識などに対する点検作業は、私自身のお仕事は今回の取材で初めて知ることができました。普段は触れることのない会社のお仕事について実際にどう役に立っているのか・どんなふうに使っているのかを学生記者という特別な視点からみることでよかったです。毎日当たり前に使っているものほど、私たちの生活には欠かせないものであり、だからこそ維持するためにたくさんの人の支えがあるのだと気がきました。

情報通信業

バレットグループ株式会社 仙台支店

〒980-0021 仙台市青葉区中央2丁目9-16 朝日生命仙台中央ビル3階 TEL:022-399-6216 FAX:022-399-6216
URL: <https://bltinc.co.jp>



代表者 小方 厚
代表取締役

資本金 1,000万円

創立・設立 2013年

受賞歴 2019年 ベストベンチャー100
2018年 WOMAN's VALUE AWARD 2018



壊すべき壁を撃ち抜く



土見 和昭
仙台支社 支社長代理

ITテクノロジーを軸に複数事業を展開

バレットグループ株式会社ではインターネット広告事業を運営する「インターネットマーケティング」、外部からのシステム開発依頼等に柔軟に対応する「システムインテグレーション」、商品開発からPR、販売、顧客対応まで全てを行う「ECマーケティング」、そしてIT領域の人材に関するあらゆる課題解決のトータルサポートを手がける「ヒューマンリレーション」の4つの事業を展開しています。仙台支社ではこの4つの事業のうちインターネットマーケティング事業を主に行ってい

いて、社内には「MISSION STATEMENT」というバレットグループの行動指針が掲示されています。その内容は「弾丸の如く、早く速くプロフェッショナルであれ 可能性を追求し、挑戦せよ 逆境こそ仲間と楽しめ 誠実であれ、謙虚であれ」という意味が込められていて、社員はその言葉を胸に、2020年は「売上170億円達成」を目指しているそうです。

採用情報

※直近の採用人数

2016年	3名
2017年	4名
2018年	5名

事業内容

ニーズに合わせたサービス提供を

主に自社で展開している成果報酬型プラットフォーム「SLVRbullet」に登録されている案件の広告を運用しています。従来の広告では「広告費に対して十分な成果が得られない」という悩みを抱えているお客様が多かったこともあり、成果に応じて報酬を頂くという逆転の発想でお客様の悩みを解決し、高い評価を得ているそうです。仙台支社が所属するチームでは、具体的にWEB広告の製作から配信、配信後の効果検証と最大化のための施策考案まで、全ての工程を担っています。1つの案件に対して、より低コストでより多くの商品を販売するために、商品の魅力を文章や写真にて最大限に引き出す表現力が肝になるそうです。変化の速い業界のため、お客様や購買するユーザーが求めるものは常に変わり続けます。世の中の最新情報にアンテナを張り、顧客の心を掴み続けることが常に必要とされる職種であり、それを行うことが良好なサービス提供へと繋がるそうです。

求める人物像

画期的なアイデアを出すために

成長意欲の高い人、チャレンジ精神の旺盛な人を求めています。広告というものは、日々新たな媒体への掲載や、新たな流行、新しいテクノロジーによって進化し続けています。そのため、その進化についていけるように、常に学び自分自身をアップデートしていく姿勢が必要です。身の周りのさまざまなこと・ものに興味を持ち、情報をキャッチして手段を考え、発信・実行していくことも非常に大切です。また会社の成長スピードが速く、大幅な増員により組織が急速に組織が拡大しているので、リーダーやマネージャーといったポジションに挑戦しやすい環境でもあります。経験や入社時期は関係なく、自身のチームを引っ張っていききたい、より良いものにしたいという社員の強い気持ちを尊重しています。当社では、力や能力がある者のみが役職者になるのではなく、「役職や立場が人を育てる」という理念も持っています。ぜひチャレンジ精神旺盛な人に未来のリーダーとなっていきたいと思っています。

将来ビジョン

ユーザーに密接したサービスを

会社全体としては、今後も自社オリジナルプロダクトとしての広告事業、商品企画からユーザーサポートまでを一気通貫で対応するECマーケティング事業、エンジニアやクリエイターのキャリアコンサルティングを手がけるICTソリューション事業を柱として、国内外へ事業展開していきます。仙台支社としては地方の優秀な人材を獲得しつつ、広告事業を通じて地方経済への貢献を目指します。今後の増員計画も着々と進んでいるので、地元雇用を積極的に行い、仙台市のさらなる発展にも寄与したいと考えています。「仙台のWEB広告企業と言えばバレットグループ！」と言われるような企業・支社を目指し、最先端の広告事業を展開していきたいと思っています。



トレーディング事業部 近野 文人さん

ポイント

- 新しいことにチャレンジするのが好きな方
- 組織のマネジメントに興味のある方
- 成長意欲の高い方

WISE記者の
企業体験記

広告制作の候補づくりには苦戦

商品の広告を考えるという作業を実際に体験させて貰いました。広告を考える際にはクライアントから具体的な指示がある場合と、自分たちで商品を使用して考える場合があるそうですが、今回は私が実際にとあるファンデーションを使用し広告を考えてみました。商品の特徴を元にまずは候補を複数考えてみることにしましたが、短時間でなかなか浮かばず苦戦しました。実際には1つの商品につき50以上もの候補を考えることもあるそうです。もちろん商品の特徴だけに基づいて考えるのではなく、商品がどの年齢層に向けたものなのか、ブランドイメージを損ねていないかなどの配慮も大事だというお話が印象に残りました。

候補を考えた後は実際に撮影へと移ります。使用した写真には花などの小道具を使用しましたが、それらを自分たちで準備するという点には驚きました。

写真の角度や商品の位置に気をつけながら、撮影を終えた後は写真を編集して頂きました。

パソコンの編集ソフトに疎い私にとっては、化粧品というイメージに合ったレイアウトやフォントが、どんどん決まってく様子は感動的でした。

ここまでの多岐に渡る工程を踏まえ、普段から広告に対しさまざまな面で触れておくことの重要性を再確認することが出来ました。



ここが 知りたい 広告制作には…

商品の広告を作成するにはさまざまな面からの分析が欠かせません。化粧品の広告を取り扱うことが多いので、化粧品に関しては特にだと思われれます。その為まずは自分で商品を使用してみるそうです。クライアントから具体的なイメージを提示されて制作する場合がありますが、実際に商品を使ってみることで新たな特徴が見えてくることもある為です。広告に際する文言もその商品がどの世代に向けられているかを加味しながら表現を変えていく必要がありますし、文章の順番を変えてみるだけでも数値として表れる評判ががらりと変わるそうです。もちろん商品のブランドイメージを崩さない文言であることも大切で、レギュレーションの遵守も作成のポイントとなるという事を教えて頂きました。



データを駆使しながらの広告制作

先輩の 声

環境の良さ、チームワークの良さは随一です



関 ひかるさん
トレーディングデスク事業部

トレーディングデスク事業部で技術力を生かした広告運用の仕事をしています。もともとWEB業界で働きたいと思っていましたが、インターネット業界の知識はほぼ無かった為にどうしたものかと悩んでいました。そうした折に参加した説明会でバレットグループを知ったのが入社へのきっかけです。説明の中で感じた人柄の良さ、チームワークに惹かれましたし、実際入社してみてより環境の良さ、それぞれの仲の良さを実感しています。特に仕事の中で個人の特徴を尊重し合い、人を大事にしている点は好印象でした。

入社を検討している皆さんには未経験であっても興味があるのなら、自らの市場価値を上げたいという思いがあるのならばぜひやってみようという勇気を持って欲しいと思います。会社は必ずその思いに応えてくれます。

ある先輩社員の1日

8:00	ジム
9:45	出社
10:00	業務開始
	広告の配信調整
13:00	昼食
14:00	キャッチコピーの制作
16:00	昼寝 (1日に15分自由に昼寝をとることが出来ます)
16:15	バナー広告の制作
18:00	Skypeで東京の取引先様と打ち合わせ
19:00	退社
	国分町が近いので食事に行ったり、仙台駅で買い物をしたり

仕事柄についてやってしまうこと

SNSや動画サイトを見ていて、広告が表示されるとつい気になって細かく見てしまいます。使われている見出しや画像の表現方法、印象に残る言葉の表現など、WEB広告は身近な存在だからこそ気になってしまいます。社内でも「この前こんな広告を見つけてたよ!」といった会話が飛び交っています。また、美容商材を多く扱っているため、成分に詳しくなりました。気になる商品にはどんな成分が入っているのかつい調べてしまいますね。

記者紹介



東北学院大学 2年 小野 夏実
今回取材させて頂いたバレットグループ株式会社さんにはとてもいい意味で期待を裏切られました。取材させて頂くまでは広告業界で働くには高度な技術や一定の資格が必要で、きっと働いている方々も毎日大変な仕事をこなしているのだらうと思っていました。この記事を読んでいる皆さんの中でも同じように思っている方は少ないと思います。しかし今回お話を聞かせて頂いた皆さんには笑顔で事業内容や将来のビジョンについてお話し頂きました。特にそれぞれ異なる職場で働いてきた皆さんが得たスキルを現在の職場で生かしているというのはとても素敵なことだと思います。素晴らしいお話をたくさん聞かせて頂きありがとうございます。



東北工業大学 2年 鈴木 章太
今回バレットグループ株式会社さんを訪問して感じたのは、今の時代の波に乗っているのだと感じました。実際話を聞いていても、若者中心の組織作りをし、いろいろなクリエイティブな考えを社員の皆さんが沢山持っていて、人材育成に長けているのだと感じました。またマルチに仕事をする事でこれからの流行にも柔軟に対応出来る会社であり、このような会社に入りたいという憧れを持ってしまふほど、興味を持ち良い影響を受けました。

その他サービス業

株式会社 マーキュリー 東北支店

〒980-0021 仙台市青葉区中央1-6-35 東京建物仙台ビル13階 TEL:022-206-2868 FAX:022-206-2873
URL: www.mercury-group.co.jp



代表者 佐藤 友弥
東北支店支店長

資本金 5,000万円

創立・設立 2006年



感動を届けるプロフェッショナル集団



佐藤 友弥
東北支店支店長

他社には負けない活気溢れる環境

株式会社マーキュリー東北支店はクライアントからの依頼を受け、東北各地の家電量販店で携帯電話の販売をしています。特色は、社員の若さと、面接で再チャレンジの機会を設けている点です。東北支店は現在6年目。社員の平均年齢は若く、皆活気にあふれています。同じような事業を展開している他社と比較しても、従業員の人柄の良さや会社の明るさは負けません。面接の中で一緒に成長していきたいと考えているため、何度でも挑戦する熱意ある人にはチャンスを設け

ます。常にコミュニケーションを取る業務のため、社内においても少しでもお互いの壁をなくしたいと思っています。社内では、バーベキュー、フットサル、芋煮会、他にも季節によって様々なイベントが行われています。また、ボードゲームや卓球なども、自由参加で気楽に社内交流ができるようになっています。新人研修にも力を入れています。遠慮しないで何でも聞ける空気があるのも強みです。

採用情報

※直近の採用人数

2017年	52名
2018年	84名
2019年	76名

事業内容

相手に感動を届ける

人材サービスを提供する企業として、クライアントにセールスプロモーション、オペレーションアウトソーシング、コンサルティングなどのサービスを提供しています。具体的には、取引先の仕事現場における販売促進活動や店舗運営へのアドバイス、トラブルの対応、さらに事業企画の立案などを行っています。担当する企業の歴史、事業内容への理解を深くすればするほど、良い成果を上げられます。企業理念である「感動エージェント」をいつも心に留めて行動しているため、相手の期待を超えることを意識しています。相手の感動している姿、喜んでいる姿が見られるやりがいのある仕事です。東北支店では、主に携帯会社と連携して事業を行っています。

将来ビジョン

平均年齢25歳 若さあふれるマンパワーを活かす

これからは東北6県全てに営業拠点を構えていきたいと考えています。現在も東北6県をカバーしていますが、例えば東北支店のある仙台から秋田まで行くと時間がかかってしまいます。各県に営業所を設けることで地域とより早く密接な関係を築きたいです。また、研修や採用活動を皆さんの地元でもできるようにしたいですね。業績は年々増加していますから、採用計画を縮小する予定はありません。むしろ営業所を増やすと皆さんの力が必要です。現在、社員の平均年齢は約25歳です。業界内でも特に勢いがあると言えます。若さゆえに社会人としての経験値は同業他社の後を追っているかもしれませんが、昨年度から新入社員の研修内容をさらに充実させ、新人が安心できるフォロー体制を整えています。若さあふれるマンパワーを活かしていきたいです。

求める人物像

人としての温かみを持つ人を迎えたい

入社に当たって必要な資格は特にありません。理系・文系も問いません。強いて言うならば相手に感動を与えたいというマインドが重要です。お客様と共感し、親身になってお客様のお悩みを聞き、積極的に解決方法を探せる人が活躍できると思います。また、現場では「お客様の心を動かすこと」が大切です。心が動かなければ人は物を買いません。ただ単に接客をするのではなく、「1日1回、誰かを感動させる」という気持ちを持ってほしいです。そういう意味では人としての温かみを持つ人を迎えたいと思っています。たとえ人見知りでも入社後は研修期間を設けているので、仕事に対して不安や緊張を抱えている新入社員も、安心して業務に就くことができます。会社対学生ではなく、人対人として社員を迎え入れたいと思っています。就活は不安なこともたくさんあると思いますが、挑戦してくれる学生には一人ひとりしっかりと向き合っていきます。



お花見やBBQなどの社内行事も多く開催されている

ポイント

- 他人に感動を与えたいというマインド
- お客様の心を動かすこと

WISE記者の
企業体験記

会社説明会に参加して

緊張した面持ちの就活生と一緒に、会社説明会に参加させていただきました。

「感動エージェント」を企業理念に、お客さまに常に「感動」を与えられるよう、まずは自分自身が「一日一感動」しようということで、冒頭に、「最近感動したことは何か?」という質問がありました。アルバイトでレストランの接客業をしている就活生は、「接客をされていて『ありがとう』と言ってもらえたことに感動した」ということを発表していました。

入社後は営業本部で店舗対応をし、接客、販売、契約の基礎を学び、その後上司の補佐的な役割で成長していける環境があるとお話でした。社内の平均年齢は25歳~26歳だそうで、上司との年齢も近いので、思ったことや気づいたこと気軽に話せるそうです。上司の人柄やキャリアステップが入社の決め手になったという人が多く、入社しても安心して働いていける環境だと思いました。

会社の制度として、FA制度や社内公募制度というユニークな制度もあるそうです。やりたいこと、挑戦したいことは上司に言わない限り分からないので、そういった制度で手を挙げアピールすると、挑戦のための近道になると、採用部リーダーの田中さんの経験からお話いただきました。

ある就活生は、「社風も合っていて、なにより人事の人が魅力的。今日受けてみて新たな発見があり、ますます興味を持った」と話していました。また別の就活生からは、「事業内容を聞いて人と人をつなぎ、人間として成長していきたい」と話していました。私自身、貴重な取材経験をさせていただきました。



ここが
知りたい

感動エージェントとは

企業理念にある“感動エージェント”とはどんなエージェントなのかを聞いてみました。

まずは社会に対して感動を与え続けることができる企業であること、そのうえで、社の内外問わず、関係する人たちに「感動していただくこと」を目指すエージェントとして活動することが重要であるといえます。社会の多くの人たちに「感動していただくこと」こそが、マーキュリーの企業価値に繋がります。

それを実現するために「お客様の期待を超える価値の創造」・「社員が誇りを持てる企業風土」・「社会貢献」の三つを経営理念に、「笑顔」・「親身」・「感謝」という三つの行動指針を打ち出しています。

充実の社員研修制度

マーキュリーでは、セールスプロモーションの業務の専門的な教育を受けたプロフェッショナルな社員を育成するための教育研修プログラムを整えているそうです。正社員の雇用を積極に行い、入社年次やステージに応じた教育研修プログラムを実施し、質の高い業務を長期的に実践することで、クライアントからの信頼を得ているそうです。『教育研修プログラム』、『組織体制』、『OJT』による三位一体の教育体制を整えているので、セールスプロモーションをはじめとした業務における情報を収集・分析し、社員のスキル向上のための教育研修を実施する「SP Labo」という部署を設け、専門性の高い実践的プログラムを整えたり、年次に応じた「フォローアップ研修」はもちろん、「職種別研修」・「OJT指導員研修」など、教育研修プログラムが充実しているのが特徴です。

先輩の
声

何より「人」に魅力を覚える



瀬野尾里佳さん
東北支店営業二課

現在は東北6県の店舗に出向き、携帯電話の販売をしています。大学時代は結婚式場でアルバイトをしていました。人が喜ぶ姿を身近で見ているので「身近な場所で感動を与える仕事がしたい」と思い、「感動エージェント」を理念とするマーキュリーに入社しました。同期は70人くらいいて、みんな仲良しです。販売成績で伸び悩む時期もありましたが、先輩方が親身になってアドバイスをくれました。職場では笑顔が絶えませんし、何より「人」に魅力を覚える会社だと思います。仕事ではお客様から「ありがとう、また来ます」と感謝される時が一番嬉しいですね。これからは販売だけでなく現場に出る人を支える営業や人事の業務にも携わりたいです。これから就活を控える学生の皆さんには、とにかく学生生活を楽しんでほしいです。焦らなくても大丈夫。自分のペースで納得のいく会社を見つけてください。

瀬野尾さんの1日

9:45	店舗に出社
10:00	業務開始 (店舗販売、接客)
13:00	昼休憩
14:00	業務開始 (店舗販売、接客)
19:00	業務終了、退社

仕事柄つついってしまうこと

私が職業柄つついってしまうことは、接客をしてくださる店員さんにやさしくしてしまうことです。マーキュリーで働いている中で、自分自身が販売員として働くようになり、販売員側、店員側の気持ちが分かるようになりました。そのため、家電量販店や洋服のお店で接客をしてくださる店員さんの話をしっかりと聞くようになったり、優しく質問をするように気をつけています。

記者紹介



東海大学4年 猪股 修平

「お電話ありがとうございます。感動エージェントマーキュリーでございます」。アポイントを取るためにかけた電話に返ってきたのは、とても元気な声でした。当初は「一体どんな会社なのだろう」と緊張していましたが、終始笑顔で対応していただき緊張がほぐれました。「社員の平均年齢が25歳」とのこと、活気のある雰囲気を感じました。私たちがオフィスに訪問した時、研修を受ける新入社員の姿がありました。その方も素敵な笑顔でした。「笑顔が絶えない明るい会社」という印象が強いです。実際、社内ではサークル活動やレクリエーションなどで業務外でも交流が多いとのこと。2年目の瀬野尾さんは「とにかく嫌な人がいない」と断言していました。何よりも「人」に恵まれた環境だそうです。皆さんが携帯ショップや家電量販店で見かける笑顔は、マーキュリーさんの社員さんのものかもしれません。



東北大学3年 劉 亦煒

初めて取材をしました。事前にホームページなどでいろいろと調べ、質問を考えました。実際にインタビューをすると、ネットに載せていない点もありました。そして、マーキュリーさんのような人材派遣会社は初めて訪問したので、とても新鮮でした。外国人として最初は心細く心配していましたが、一緒に来てくださった猪股さんもマーキュリーの社員さんも私が外国人であることを介せず優しくしてくださいました。大変に感激しています。

医療、福祉

株式会社 ミツイ

〒982-0013 仙台市太白区太子堂1-32 TEL:022-302-7093 FAX:022-302-7094
URL: <https://mitsui-co.jp/>



代表者 金沢 和樹
代表取締役社長

資本金 1,000万円

創立・設立 2014年

受賞歴 2019年 仙台「四方よし」企業大賞 平成30年度 優秀賞
2019年 グッドキャリア企業アワード2019 大賞【厚生労働大臣表彰】

生まれてから最期までをサポートする



佐藤 大介
統括ゼネラルマネージャー



鈴木 貴之
リックイ西多賀所長兼マネージャー

「生まれてから最期までをサポートする」を理念に

株式会社ミツイは「生まれてから最期までをサポートする」を理念に運営を行っており、その事業は保育、障がい児、障がい者、高齢者など多岐に渡る「点から線、そして面へ」ワンストップサポートを可能としています。ここまで幅広い分野を扱える企業は福祉業界内であっても、そうそうありません。この特性を活かして、転職せずに社内で他分野の経験を積み、スキルアップすることができるそうです。(保育園の保育士が障がい児童の事業所で働くなど)

また、福利厚生もとても充実しています。子育てしながら働く母親のために、社内の保育園に保育料無料で預けられるサービスや、定年を70歳以上にすることで、働きたいならいつでも働ける環境づくりを実現しています。そして、障がいの有無ではなく、その人の強みを活かした働き方を重視しているため、利用者からスタッフとして採用した実績もあります。このように幅広い事業と、充実した福利厚生、その人の強みを活かした雇用を同時に実現できることがミツイの特色です。

採用情報

※直近の採用人数

2017年	2名
2018年	2名
2019年	6名

事業内容

自社だけでゼロ歳から高齢者まで

宮城県内で幅広い福祉事業を展開しています。保育園、障がい児の児童発達支援や放課後等デイサービス、障がい者の就労支援、高齢者の老人ホームやデイサービスなど、「生まれてから最期までをサポートする」との理念通り、支援の対象は世代を問いません。また、高齢者の住まいをサポートするため、病院や老人ホームを無料で案内するサービスも展開しています。さらに、介護相談にも取り組んでいます。保育や介護を担うだけでなく、不安を抱く人のケアも事業の一翼になっているそうです。自社だけでゼロ歳から高齢者まで関わることができるため、たとえ介護の仕事に携わっていても、興味を持てば途中から保育士の仕事に異動できます。逆もまた然りです。保育事業では保育士にスマホを支給しており、連絡帳の代わりにアプリを通じて保護者との連絡をしています。ICTの導入で効率的な業務環境づくりをしている点は、福祉事業を手がける企業の中では一歩リードしていると言えます。

求める人物像

自分自身の考えを伝える力を持って

伝える力を持った人を求めています。2019年度に入社した新卒社員は、入社前課題として「会社全体の事業を包括したパンフレット制作」に取り組んでもらいました。という利用者やスタッフがいるのか、事業所の雰囲気を知ったうえで仕事を始めてほしいと思ったからです。採用面接では自分の夢や、やりたいことについてパワーポイントを用いてプレゼンをしてもらい、入社式の際には、よりブラッシュアップしたプレゼンをしてもらいました。何故、このような課題を設けたのかというと、自分自身の考えを伝える力を持ってほしいと思ったからです。福祉の仕事は利用者の特性を見極めて関係性を構築することが重要ですので、まずは自分自身を説明できるかがかなめになります。もし入社するまでのイメージが湧いてこなければ、事業所の見学やインターンに参加してみてください。会社の雰囲気はネットだけではわかりません。人を求める企業と仕事を探す学生が mismatch をしないよう、希望のある学生がいればいつでも向き合います。

将来ビジョン

身近にいる人材が働ける環境づくりを

現在も幅広い年代に向けた支援を手掛けていますが、まだまだできることはあるはず。今後は、人材不足が深刻な飲食業や農業、水産業への事業展開も視野に入れています。統括ゼネラルマネージャーの佐藤さんは「障がいの有無は関係なく、働きたいのに働けないという人たちの就労支援事業を手掛けていきたいです。昨今は外国人労働者の雇用が注目されていますが、まずは身近にいる人材が働ける環境を整備していければと思います。」とお話されていました。マネージャーの鈴木さんは「いじめや不登校の問題を解消するための専門的自立機関や施設を作りたいです。いうなれば『就労特化型フリースクール』のようなものを作れたらいいな、と思っています。働ける力を持つ人がスムーズに社会に参画できる機関を手掛けていきたいですね。そしてこれまで続けてきたブログの更新は継続していきたい。顔出しで利用者が登場することでステレオタイプな障がい者に対するイメージを払拭していきたいです。」と熱い想いを語ってくれました。



事務作業の風景

ポイント

- 利用者とのコミュニケーションや人間関係を築くため、伝える力を持った学生

WISE記者の
企業体験記

毎日の日課を体験！

障がい者向けの「就労移行支援／就労定着支援 Rickeyクルーズ」にて、日課として毎朝行っている朝礼とラジオ体操などの軽運動を一緒に体験させて頂きました。朝礼と軽運動を日課にすることには、3つの意義があります。それは、(1)毎日職場に通うための体力をつけること (2)体内パラメーターや生活リズムを整えること (3)コミュニケーション能力の育成です。このように、「当たり前だけど大切なこと」に取り組むことによって、長く働き続けるための土台づくりをしています。

朝礼では、まず基本の挨拶である「おはようございます」、「いらっしゃいませ」、「ありがとうございました」などの、就労後もよく使われる言葉の発声練習を行いました。朝なのにもかかわらず、ハキハキとした挨拶が飛び交っており、私も元気を頂きました。その後、朝礼中の諸連絡で、「以前他の企業の方々から Rickeyクルーズを訪れた際に、元気はつらつで良かったと言っていた」との報告がありました。その連絡通りの皆さまの元気さ、明るさを、私も体験を通して感じる事ができました。

ラジオ体操はペッパー君の指揮のもとに行われ、体を動かしました。ミツイさんが福祉業界でありながらも、ITを積極的に取り入れているからこそできる技なのでしょう。余談ですが、今後ペッパー君をもっと活動に取り入れたいとプログラミングの担当スタッフの方から話を伺ったので、福祉×ITについて、今後の展開も楽しみです。



ここが 知りたい やりがいを感じる時

どのような仕事でも大なり小なりの苦労はあります。しかし、苦労や困難を乗り越えた際のやりがいは、素晴らしいものなのだと思います。福祉という分野に関して、現場で働く人達の苦労や、それを乗り越えた際のやりがいについて話を聞かせて頂きました。

まず、福祉業界は何事にも人が関わる仕事です。それ故に、皆が同じ方向を向いて仕事を行うことが難しいそうです。例えば、利用者に関わり、信頼を築くことは一朝一夕では不可能で、容易に行えません。このように過程は大変ですが、その人の特性を見極め、支援を行い、対話を積み重ねた結果、相互に信頼を築けたときのやりがいはとても大きいです。そして、最終目標である自立を達成した姿、それを見て笑顔になるご家族の姿を見たとき、何ものにも代え難い程の喜びを感じるそうです。人と関わ

る仕事だからこそ苦労する点もありますが、やりがいや達成感、喜びを与えてくれるのも人であることが、人対人の仕事を行う福祉の魅力なのかもしれません。



皆が笑顔になれる職場です

先輩の 声

直感的に「ここで働きたい」と思った



黒澤 里穂子さん
Rickey アカデミーあすと長町

障がい児向けの「就労準備型」放課後等デイサービスで働いています。就労を意識したプログラムを設けているので、利用者一人ひとりと関わりながら、相手の意向を聞いてパソコンの使い方や調理活動をサポートしています。大学は東北福祉大学に通っていましたが、保育士の免許を取得しようと思っていましたが、業界にいる先輩や大学の講義の中ではどうしても負の側面を教えられがちで、4年生になっても保育園への就職を躊躇していました。私自身、手話サークルに入っていたのですが、たいていの保育園では手話を活かせる環境がなく、それも足かせになっていたのです。そんな時、ミツイに就職したサークルの先輩に紹介され、今まで勉強したことと手話を活かせる環境に惹かれ、直感的に「ここで働きたい」と思って応募しました。毎日向き合うことが変わるので不安もありますが、アカデミー生（利用児）の成長を目の当たりにするととても嬉しいです。この間まで話しかけてくれなかった子が今では私に相談して来たり、苦手だったパソコンのローマ字入力ができるようになったり。本人の喜びが私たちにとっての喜びでもあります。今後はアカデミー生向けの手話講座を開きたいですね。あとは、生きづらさを感じている子どものサポートもしたいです。ここは自分のやりたいことを言える環境なので働くのが楽しいですよ。

黒澤さんの1日

11:40	入社 PC立ち上げ
12:00	昼礼（ミーティング、教材の準備）
14:00	休憩
15:00	アカデミー生の入室準備 (いす、ホワイトボード等のレイアウト整備)
15:30	入室したアカデミー生への対応 (プログラムや個別面談)、記録入力
19:30	アカデミー生退室 その後、事務の引き継ぎや翌日の準備など
21:00	退社

残業はほとんどなく、延びた場合もだいたい10分程度

仕事柄についてやってしまうこと

私は、採用面接から就職後も人前でプレゼンをする機会が多くありました。このように、仕事が人とのつながりや言葉を重視しているため、普段も人とのかわりの中での対話を大切にしています。自分から相手を知ろうとしなければ、分からないことも多くあります。私も、はじめは福祉という分野に対して、知らず知らずのうちに偏見を持っていたのだと今となっては思います。実際に働いてさまざまな方と対話を行い、人間関係をつくることで、それ以上に福祉という分野に対しての魅力を知ることができました。

記者紹介



東北学院大学 2年 新関 萌恵

この取材は、私以外の学生メンバーの予定がつかないため、正直なところ不安に押し潰されそうな気持ちでいっぱいでした。しかし、私の不安が吹き飛ばすくらい、取材先の皆様方は温かく出迎えてくださり、リラックスして取材を行うことができました。施設の皆様方の笑顔で、はつらつとした様子は私に元気を与えてくれました。この度は、お忙しい中、取材をお受けくださりありがとうございました。



東海大学 4年 猪股 修平

何故取材に行けなかったのか。悔しくなるほど、ミツイさんは魅力的な企業だと思いました。同じ班のメンバーによる録音を聴いていると、聞こえてくるのは笑い声。笑顔が絶えない職場であることが容易に想像できました。「定年を100歳にしようか検討している」と聞いたときは、手元のカップをひっくり返しそうになりました（カフェで録音を聴いていたのです）。ゼロ歳から最期まで。幅広い年齢の人と関わる企業が、すぐそばにあったのです。

複合サービス事業

みやぎ生活協同組合

〒981-3194 仙台市泉区八乙女4-2-2 TEL:022-374-1281 FAX:022-773-1821
URL: <https://www.miyagi.coop>



代表者 大越 健治
代表理事

出資金 357億3,400万円

創立・設立 1982年

受賞歴 2018年「平成30年度地産地消等優良活動表彰」にて「東北農政局長賞」を受賞



皆の声を反映させる、たすけあいの力



神崎 絵里
人事事業部

常に地域と在り続ける組織に

宮城県と福島県を事業域とし、地域を常に見つける企業として「食の安全・安心」、「環境配慮」、「地域貢献」など設立理念の中でSDGsに先立つ事業や取り組みを数多く担っています。SDGsの活動は「エシカル消費」、「お買い物支援」、「くらしのサポート」、「他団体・自治体との協働」、「環境の取り組み」、「地域社会への貢献」の6つが挙げられます。特にエシカル消費では、東日本からの復興を食を通じて支援する「古今東北」商品の開発や販売という取り組み

を行っています。東日本大震災では、みやぎ生協も店舗の損壊など被害を受けました。被災された方々のコミュニティ作りとして「ふれあい喫茶」の開催や、移動店舗せいきょう便のエリア拡大など、震災復興支援にも積極的に取り組んでいます。みやぎ生協はこれからも子育て世帯を始め、高齢者、そして社会的弱者と呼ばれる立場の方々も一緒に、持続可能で安心して暮らせる地域社会づくりを目指していく組織です。

採用情報

※直近の採用人数

2017年	57名
2018年	61名
2019年	71名

事業内容

地域づくりに貢献する事業

みやぎ生協は消費生活協同組合という業態のもと、幅広く事業を展開しています。店舗事業や共同購入事業の他、商品のパッケージ不良などにより、品質上の問題はないが販売できないものを社会福祉団体へ無償提供するフードバンク事業、保障共済事業、介護や子育てに関する福祉事業など、人々のくらしのさまざまな場面に携わっています。また、震災後の取り組みの一つとして、くらしの安心サポート事業が挙げられます。この事業では、家計再生支援や生活相談を行っています。

このように、多岐にわたる事業分野を持つみやぎ生協のポイントは“協同”です。みんなで力を合わせて人間らしいくらしを創造することを目標に、地域で築きたすけあいを大切にしています。事業を展開する地域が制限されているからこそ、地域に必要とされていることを把握し、地域に密着した取り組みを行うことができます。

求める人物像

人との関わりを大切にする

みやぎ生協ではお客様と直接関わる機会の多い仕事が多いため、人と接することや喜んでもらうことが好きな人を求めています。店舗業務でも宅配業務においても、お客様と直接コミュニケーションを取りながら働いているので、重要視しています。また、受け身の姿勢ではなく、さまざまなことに興味を持ち、学ぶことができる人もみやぎ生協で活躍できると思います。まだまだ効率化できる点や改善できる点も多いので、自分たちで考えて率先して行動し、課題解決に努めることのできる人は、私たちにとってこれから必要になる人物であると考えています。事業を通して、社会問題と向き合い、地域の暮らしの向上に貢献することを目的としているので、一人ひとりの思考力・行動力を発揮できる仕事です。直接お客様の声を聞くことのできる現場では、やりがいを感じる場面が多くあるので、人と接することが好きな方にはぴったりだと思います。学生のみなさんには、社会問題を進んで学ぶなど、自分の能力育成に取り組んでほしいと思っています。

将来ビジョン

地域の人々のくらしの向上へ

2019年3月に「みやぎ生協」、「コープふくしま」、「福島県南生協」が一つになりました。3つの生協が力を合わせることで、これまでの事業をさらに広げることができ、地域の暮らしの向上に貢献したいと考えています。また、2017年からスタートしたコンビニエンスストアとの一体型店舗を展開している事業は、今後力を入れていきたい分野です。一体型店舗では、通常商品の他に、店内調理したお惣菜売り場とイートインスペースを設置しています。お買い物はもちろん、地域に暮らす人々の居場所づくりも私たちの取り組みの一つです。みやぎ生協では、関係している皆様の声が事業展開につながっています。また、他の団体や行政と連携し、社会問題に向き合っていきたいと思っています。これからも人々にモノを供給し続けることを大切にしながら、生活協同組合として、皆様の声を反映させて運営していきたいです。



興味をもって、意欲的に

ポイント

- 人と接することや喜んでもらうことが好きな人

WISE記者の
企業体験記

震災を乗り越えたみやぎ生活協同組合

みやぎ生活協同組合の文化会館ウイズという建物内にある、東日本大震災学習・資料室の見学をさせていただきました。ここはみやぎ生活協同組合が東日本大震災の混乱の中、どのような取り組みを行っていたのかを余すことなく知ることのできる場所です。中に入ると左手に音声ガイド開始のボタンがあります。全部で15分間の音声ガイドを聞きながら、中で円形に展示された写真や資料を通し、東日本大震災の発生瞬間からの歴史を振り返ることができます。中央には当時の様子を映像で確認できるシアタールームが完備されていました。今回の取材では時間がなく、映像を見ることができませんでしたが、座席数20席のスペース、スクリーンは120インチに及ぶ大画面の液晶プロジェクター投影が行われているそうです。歴史を振り返る中で驚いたのは、東日本大震災の影響で多くのお店が営業できない状況となった中、みやぎ生活協同組合は各店舗の店長の独自の判断で、当日、またその翌日には営業を再開させたそうです。さらには示し合わせたわけでもなく、各店舗の店長は販売する商品の値段設定までに工夫を凝らし、100円、200円などお釣りの出ないようにする工夫をしたそうです。みやぎ生活協同組合で働く人たちの志の高さを感じるお話が聞けました。また展示されている写真には、お客様の笑顔がたくさんあり、みやぎ生活協同組合の「平和で持続可能な社会を目指す」という目標に近づくために、震災のような予期せぬ状況となった時でも、日々精進しているのだと感じました。



ここが
知りたい

問題のある食品管理も徹底

店舗で購入した商品や、共同購入で自宅に配達された商品がダメになっている、傷がついてしまっているなどの問題がある場合は、その商品を店舗まで持っていき「商品の安全対策室」や「商品検査センター」という場所に送られるそうです。そこでは微生物検査や残留農薬検査のほか、放射性物質検査などさまざまな検査を行い、問題のあった商品の分析をする作業が行われます。そしてその結果は、店舗や宅配センターを通してお客様へ報告します。問題の商品としては、リンゴや梨などの中身を割らないとわからない商品などがあげられ、それに対しては商品の交換や返金という形で対応されるそうです。またその商品が当日に入荷された商品だった場合は、商品を取り扱う部署に連絡するなど、問題が改善されるための対策がされています。利用者の目線から考えると、

そこまでの対策を行っていることは、これからみやぎ生活協同組合を利用していくうえで安心できる取り組みの一つとなると感じました。



先輩の
声

みやぎ生協に就職したルーツ



渡邊 志歩さん
生活文化部 地域活動事務局

私は山形の大学で食品学や栄養学について専攻していました。私が大学生の頃は、「自己分析をなさい」と何度も言われていた記憶があります。大学3年生になり就職を考えたときに、「自分は何をしているのが楽しいのか」と人生を振り返り、何度も自分自身を見つめ直しました。まず初めに、自分が就職先に望んでいることから整理し始めたと思います。私は「大学で学んだことを仕事で生かしたい」、「自分が生まれ育った宮城で働きたい」、「人と多く関わる仕事がしたい」という3つの希望がありました。その3つの希望になるべく沿った企業を探していくうちに、みやぎ生協の存在を知り、無事内定をいただき入協しました。みやぎ生協は宮城県内において多くの店舗を構え、知名度のある会社です。また宮城県の世帯加入率は業界内において日本一を誇り、現在では7割を超える世帯の方に加入して頂いています。私がみやぎ生協に就職し、現在に至るきっかけを作ったのは、やはり早い段階から自己分析を行っていたからだと思っています。自分自身と向き合う、その大切さを学生さんにも伝えたいです。

渡邊さんの1日

6:45	起床
7:40	自宅を出る
9:30	始業（掃除。コーヒーを入れる）
	朝会（今日の仕事の確認作業）
10:00～18:00	こーぶ委員の会議（企画の準備・推進）
	ホームページ作成
	学習会の名簿整理 コープ商品を使ったレシピ考案
12:00	昼休憩
18:30	退勤
20:00	帰宅自由時間・食事など
24:00	就寝

仕事柄についてやってしまうこと

私は学生の時、和食屋での接客経験をしたこともあり、ついつい電話での受け答えがとて丁寧になってしまいます。良いことだとは思っていますが、これは仕事柄だと感じています。また、食品学や栄養学を専攻していたことから、食品パッケージの裏面を確認してしまう癖があります。裏面に記載されている成分を見て分析をするのも楽しい時間です。こーぶ委員をはじめ、毎日食への関心が高いメンバー（組合員）さんや職員とお仕事させていただいているので、この仕事を通してより食に関心を持てるようになったのだと思います。

記者紹介



東北学院大学3年 高井 円香

「みやぎ生協」と聞いてまず最初に思い浮かぶのは濃い緑が印象的なスーパーのCOOPでした。しかし取材を進めていく中で私の中のイメージが大きく変わりました。例えば商品の陳列がお客様のニーズにお応えするため地域によって異なること。スーパーが近くにないお客様のためにファミリーマートと提携してコンビニの中にCOOP商品を提供していることなどです。地域のお客様の声を常に拾える体制が整っていることに感動しました。



東北工業大学2年 戸谷 凜太郎

普段多く利用させていただくみやぎ生活協同組合が、店舗としてのスーパーや、配達を行う共同購入以外の幅広い事業を展開されていることにとっても驚きました。中でも地域社会に貢献するために子育て支援や、再生可能エネルギーの活動が行われていることは知らず、大きな発見でした。平和で持続可能な社会の実現を目標とするみやぎ生活協同組合さんの地域貢献に対する熱意が伝わる取材となりました。



東北福祉大学3年 菅原 奈央

私にとって身近な存在であるみやぎ生協の取材をすることができ、とても嬉しく思いました。今回の取材で初めて知ることができたことも多く、幅広く事業を展開していることに驚きました。私たちの生活のさまざまな場面に関わっていることを知り、暮らしや地域の創造のために働く姿は素敵だと感じました。記事を通して、みやぎ生協の活動についてみなさんに知ってもらえたら嬉しいです。

建設業

株式会社 八重樫工務店

〒989-1245 柴田郡大河原町字新南20番地5 TEL:0224-52-1736 FAX:0224-53-4788
URL: <http://www.yaegashi-k.co.jp/home.html>



代表者 八重樫 司
代表取締役

資本金 4,500万円

創立・設立 1948年



仙南地域を支える屋台骨



八重樫 司
代表取締役

仙南地域で進化をし続けるために

株式会社 八重樫工務店は、大河原町に本社を置く仙南地域の地元密着企業です。1948年に設立し、仙南地域に根ざして約70年に渡り事業拡大をしてきました。現社長である八重樫司さんは3代目で、民間工事を中心にしながら、近年は公共工事の受注もさらに請け負っています。さらに住宅建築において、(株)やえがし工務店と共に近代建築の巨匠フランク・ロイド・ライトが追及した「有機的建築」の「オーガニックハウス」も提供しています。一時の流行

に左右されず、家族の暮らし方が時代と共に子孫に継承され、自然に育まれる空間づくり。それが住まいづくりの本質だと考えているそうです。社風においては、大企業のようにシステムチックに働く環境ではないからこそ、互いに助け合いながら成長していける場所であり続け、常に地域のあしたを創ることに貢献する想いを抱いているそうです。

採用情報

※直近の採用人数

2017年	3名
2018年	3名
2019年	3名

事業内容

建築に関わる総合的な仕事

総合建設業の八重樫工務店では、建築・土木両方の仕事を行っていて、公共工事だけでなく民間工事が多いという点が特徴であるそうです。民間工事においては、仙台に営業の拠点を置き、営業力を活かして八重樫工務店だからこそできる仕事を提案しています。工事では仙南地域に拠点を置く企業と一緒に仕事をすることが多くあります。仙南地域の仕事づくりという役割を担っているように感じました。八重樫工務店では創業時から、地域と密着した仕事をしているそうで、現在でも仙南地域を盛り上げたいという思いで事業を展開しています。グループ企業として、不動産業の仙南ハウス産業(株)や駐車場管理・運営するエスパークマネジメント(株)などをもち、建築に関わる総合的な事業を進めています。地域全体を盛り上げながら勝ち抜く会社を創ろうとする、さまざまな工夫が見られます。

求める人物像

地元愛のある人を求めます

建設に興味があり、建設で地元を盛り上げたいという思いのある方を求めています。また、「自分が生まれ育ったこの地域で頑張りたい」と思う人に入社して頂きたいです。八重樫グループは常に「地域を盛り上げたい」という想いをもって日々仕事をしています。同じ考えをもってくれる人と是非仕事をしていきたいですね。また、コミュニケーションがとれるかを重視しています。現場監督になれば、年齢関係なく仲間と意思疎通をはかり、仕事を取りまとめなくてはならないので、コミュニケーションを積極的にとれる人を求めています。年齢が上の方と話して、相手の理解を得ることも大切な仕事の一部になりますので、重要視しています。

福利厚生として、工事の区切りがあるため土曜日出勤の日もあります。その分は別日に振り替えて調整するように、会社全体でバランスを取りながら働き方を工夫しています。新卒の受け入れ開始を4年前に再開した現在、若手社員は10名ほど在籍しており代表取締役である私自身も30代なので、職場全体としても風通しのいい環境づくりが出来ていると感じています。

将来ビジョン

地元の皆さんと共に

八重樫工務店は従来から主に個人病院やドラッグストアなど、民間工事に力を入れてきました。加えて、これからの展望として「公共工事の必要性」を話していました。ここ2年で多くの公共工事を受注し、特に仙南地域での仕事として斎苑や給食センターなどに携わってきました。本社のある大河原町では大型商業施設フォルテ、和洋菓子で知られる(株)菓匠三全さんの工場、さらに劇場のえずこホールなど多くの工事を請け負ってきました。これからは公共工事も積極的に進めていきたいと考えています。また、特徴でもある民間事業への提案営業では、私たちにしか出来ない建設をするため、細部までしっかり提案する、人財の質を上げるなど会社全体で「高質経営」をしていきたいとのこと。少子高齢化などで「会社を経営していく」ことは、今まで以上に厳しい局面を迎えると思います。だからこそ、仙南で勝ち抜く会社・選ばれる会社づくりをしていきたいです。



測定の風景

ポイント

- 宮城で就職したい、仙南で働いて地域に貢献したいと考える人
- 建設が好きの方

WISE記者の
企業体験記

自ら人事をする意義

私が八重樫工務店取材の中で、一番驚いたことがあります。それは社長である八重樫司さん御本人が、人事を担っていることです。一般的な会社であれば人事部の部署が設けられ、インターンシップなどのイベントで実際にお会いするのは社員だと思います。しかし、インターンシップをはじめ面接やさまざまなやり取りを、社長自ら行うのが八重樫社長のスタイルです。ここまでするにはいくつかの理由があります。一つ目は、新卒採用の再開だそうです。八重樫工務店では、長年新卒をとっていませんでしたが、3代目となる八重樫司さんが就任し、今から4年前に再開しました。二つ目は、会社の話を1番詳しく話すことができるのは、社長である自分自身であると考えるからだそうです。

「年齢も長年の社員より近く、学生のみなさんにとっても話しやすいのではないかと八重樫社長は話します。社長が学生時代の就職活動で自らが感じた「合同面接等で自分を出せないだけで、相手の本質がわかるのかどうか」という疑問から、面接をする際には自分自身が携わりたいという想いがあるそうです。

また、社長は学生と、1対1のスタイルで面接を行うなど、常に入社を考えてくれている学生さんと向き合う姿勢をとるように心がけているそうです。

社長自身がここまで最初から最後まで関わってくださる企業は大変稀であると思います。八重樫社長取材して、社員を想うアットホームな社風を強く感じました。



ここが 知りたい 地域密着への思い

地元である仙南地域の企業とともに事業を行っている八重樫工務店の地域密着への思いについて伺いました。八重樫工務店では、民間工事を中心に事業を展開しています。代表の八重樫社長は、仙南地域を盛り上げていきたいという思いから、仙南地域を拠点とする工事関連会社と仕事をすることが多いそうです。仙南地域を盛り上げていきたいという思いは、創立当時から築き上げてきた地元企業との関係を大切にしようという考えから生まれたそうです。震災時、本社のある大河原町は大きな被害はなく、受け入れ先となっていました。山元町や岩沼市の災害公営住宅に携わったり、安心やあたたかさを感じられるような木造仮設住宅の建設も行ったりと被災地域に携わっていたそうです。地域に寄り添い、事業を展開していくスタイルは、八重樫工務店の魅力であると感じます。



歴代社長の絵画、右側が八重樫司社長

先輩の 声

現場で学んでいます



鈴木 正樹さん
工事部

私が入社を決めた理由は、地域密着型の仕事であるということが魅力的でした。私は、震災をきっかけに地元の地域に貢献したいという思いが強くありました。高校生になり、建築に興味を持ち、大学は建築学科に進みました。現在は工事部に所属し、現場で働くことがほとんどです。現場ではチームワークが大切です。実際の現場でないとわからないこともたくさんあるので、職人さんに積極的に聞くように心がけています。現場で学ぶことはとても多いですね。安全面の徹底や作業工程の確認など話し合うことも多いのでコミュニケーションをとることで円滑に進められるのだと感じています。自分が携わった建築物が完成したときには、無事に終わって良かったという安心と、長く残ってほしいという思いがありますね。会社では働く環境づくりとして、若手社員の意見と年配社員の意見を聞き、両方の立場で考えてくれているため、働きやすい職場です。地元で貢献したい、地元で働きたいと考える方にはおすすめの会社であると感じています。

鈴木さんの1日

7:00	起床
7:30	出社
7:50	朝礼
10:00	現場で仕事
12:00	昼休憩
13:15	打合せ
15:00	現場で仕事
17:30	退勤

仕事柄についてやってしまうこと

仕事柄についてやってしまうことは、どんなに遅く寝ても、朝6時には目が覚めてしまうことですね。休みの前の日に夜更かしをしても、起きてしまいます。朝が早い仕事なので、体が慣れてしまったのだと思います。一度起きてしまうと二度寝ができないので、そのようなときには、趣味のアニメを見たり、ゲームをしたりしています。仕事では現場に出ていることがほとんどのため、休みの日は家にこもっていることが多いですね。のんびりと過ごして休みを満喫しています。

記者紹介



東北福祉大学3年 菅原 奈央
建築業についてたくさん知ることができました。代表の八重樫さんは30代ということもあり、若手社員にも話しやすい雰囲気の職場を作っているように感じました。仙南地域に密着した仕事を行っているため、地元で働きたいという思いがある学生にはぴったりな会社であると思いました。



東北学院大学3年 高井 円香
八重樫社長取材させて頂いて、「自らが学生と会い、話を聞く」姿勢に驚きました。就職活動が目前に迫っている私ですが、ここまで社長自らが人事をしている企業は無いのではないかと感じました。八重樫 司 社長に「人事を一人でするのは、大変ではないですか？」と質問を投げかけたところ、「当たり前のことなので、大変の感情がまずないです」と答えが、返ってきました。アットホームな環境がつけられている答えがここにありました。

分類不能の産業

株式会社 リスペクト

〒980-0811 仙台市青葉区一番町1-1-30 南町通有楽館ビルディング6F TEL:022-397-8033 FAX:022-397-8034
URL: <https://www.respect-pal.jp>



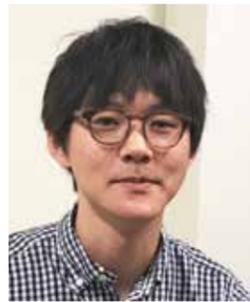
代表者 小原 琢磨
代表取締役社長

資本金 2,000万円

創立・設立 2000年



機会と選択肢を最大に



横山 裕樹
アートディレクター

刺激的で柔軟な仕事環境

リスペクトは、コンサルティング・クリエイティブ・エンジニアリングという3つの力を武器に、クライアントの課題解決を目指す会社です。この3つが一つの会社の中にあることで、クライアントの「課題を考える」ところから「ユーザーにその価値を伝える」ところまで、一貫通貫してご提供することが出来ます。また社内では、必然的に違う部署と部署同士の関わりが深くなるため、さまざまな知識が飛び交う刺激的な職場になっています。仕事の中で意識しているのは、「クライアントが求

めてきたものよりも、さらによいもの」を目指すことです。お話を伺う中で、クライアントすら気づいていない真の課題を見つけることを大事にしています。会社の風土としては社員が働きやすい環境が整っています。自分の子供が熱を出した時などにも周囲に頼って柔軟に休みを取ることが出来るので、助かっています。

採用情報

※直近の採用人数

2017年	12名
2018年	7名
2019年	10名

事業内容

クライアントの期待を超えた納品を

リスペクトは、＜コンサルティング×クリエイティブ×エンジニアリング＞の事業を行う、仙台で唯一無二のベンチャー企業です。私自身はオウンドメディアの「@人事」やクライアントのwebサイトのディレクションを行っています。まだまだネット上には人と人が出会うツールが少なく、たとえあったとしても多くの企業がそれをうまく使いこなせていません。どんなに良い企業でも、ツールを活用できないために、いろんな人に出会う機会を逃してしまっている状況です。そうして潰れてしまう会社も少なくありません。私たちは、人や社会の「機会と選択肢を最大に」することを企業理念とし、最適な出会いの場のご提供を目指しています。その仕組みづくりを行うことで日本に「いい会社」を残し、結果的に消費者であるみなさんもその「いい会社」に出会える。そうしてよりよい社会をつくっていきたく、真摯にそう思っています。

将来ビジョン

クライアントに対して提案する立場へ

現在私たちは、クライアントから依頼を受け、その依頼に沿って仕事を進めていくことを基本としています。ただ将来的には、依頼を受ける前に、自分たちから潜在的な課題をお持ちのクライアントにアプローチをしていくやり方も模索していくつもりです。例えば、当社の業務の中に新卒採用のコンサルティングや採用サイトの制作があります。そこで、今新卒採用を行っている企業や今後力を入れていきたいと考えている企業に向けてアプローチを行い、ヒアリングを通してニーズを探りながら、どうすればよりよい採用が実現できるのか、考えていければと思っています。私自身の業務で言えば、就職活動中の学生により魅力的に映るwebサイト作りに取り組んでいくことになるでしょう。難しい仕事になるとは思いますが、やりがいも多そうのでわくわくします。

求める人物像

主体的に楽しみながら成長しつづけられる人

当社はインターネット上が主戦場であることもあり、変化のスピードがとても速い会社です。また、新規事業の立ち上げも積極的に行っていることから、「前例がない」という作業を往々にして求められます。そんな中で「経験が無い」「正解が分からない」と立ち止まってしまうと、物事は前に進みません。そのため、失敗を恐れずに前を向いて行動できる、そのような人材を求めています。私はデザイナーからアートディレクターになりましたが、その職域ではPCの扱いやデザイン機材の扱いに慣れている人が活躍するフィールドが多いです。ですが、学生の段階ではそのようなことに慣れていなくても大丈夫。私たちは「個人の成長＝会社の成長」と考え、毎年、手厚い新卒研修を行っています。チャレンジ精神や向上心、そして周りの意見を素直に受け止められる姿勢を持っているなら、着実に成長できる環境をご提供します。



積極的に動く姿勢が大事です

ポイント

- 失敗を恐れずに前に進める人
- 変化を楽しめる人
- 当事者意識を持ち、主体的に活動する人

WISE記者の
企業体験記

温かさを感じるオフィス

私が取材に行って一番最初に感じたことは、職場の温かさです。オフィスにはカーペットが敷かれており、スリッパなどを履いて働きます。オフィス内では主に暖色が使われているような印象があり、社員のモチベーションにも繋がっているのではないかと思います。コンサルティング・クリエイティブ・エンジニアの3つが一社にまとまっているという特殊な環境もモチベーションにつながっていると感じました。普通この3つはそれぞれ違う会社が担当し行っていくのが、リスペクトはすべて自社で行っていることで、企画の段階から制作まで行うことができます。これは社員のやりがいにつながるのだと思います。仙台で初めてのベンチャー企業ということもあり、会社全体からチャレンジの姿勢が感じられました。その姿勢の中にも社員同士の緩やかな関係があり、仲の良さを短い取材時間の中で多く感じました。

社員が気持ちよく働けるようなアットホームな雰囲気づくりにとても大きな印象を受けました。



ここが
知りたい

社員から信頼を集める代表

弊社の代表は、社員から厚い信頼を寄せられています。それは東京と仙台を行き来し、自らクライアントのもとへ足を運ぶことも多いため常に忙しく動き回っているのかかわらず、社員からの相談にはきちんと耳を傾けてくれるからです。決して上から目線で自分の経験から物事を言うのではなく、根拠を元に本気でぶつかってきてくれるのが自然と伝わってきます。「会社は社員のためにある」そんなことを本気で話す代表に私たちも全力でこたえようと、日々研鑽を重ねています。

仕事に関するトピックはもちろん、今話題の出来事に至るまで、いつもアンテナが高く張り巡らされています。きっと誰しも、その豊富な知識に唸らせることだろうと思います。

とは言ったものの、その見た目や話し口からは、堅苦し

さは微塵も感じられません。目を輝かせながら話すその姿は、まるで少年のようだと思うときもあります。実際、オフィスで鼻歌や口笛が聞こえてきたら代表がいる証拠です。心は少年のままなのかもしれません。

先輩の
声

周囲から受ける良い刺激



今野 由美子さん

私は今年で入社5年目になります（取材時）。現在は営業が売上をあげていくために必要な販促活動、見込み客を獲得してアポにつなげる活動、営業活動全体の分析と戦略立案などを担当する営業企画として働いています。入社したきっかけは、コンサルティング、クリエイティブ、エンジニアリングの3つの領域それぞれを専門とするメンバーが集まっており、お客様の抱える課題に対して、解決策の提示から解決策の実行までを一気通貫で行っている点に興味を持ったことです。

それぞれの領域で活躍しさらに高いレベルを目指しているメンバーに囲まれ、日々刺激をもらっています。そんな人たちと一緒に自分が立てた戦略を実行に移し達成したときに、やりがいを感じます。

今でこそ自分から積極的に動くことが出来ますが、わからないことだらけの新規事業を前にして、慎重になりすぎてなかなか動けないときもありました。ですが、この会社にいるさまざまなプロとチームを組み、経験を積んだことで、徐々に前に進んでいけるようになりました。

これからは、自身の経験をもとに、教育や業務の効率化に努めていきたいと思っています。そして働いていく中でどんどん新しい目標を立て、全力でチャレンジしていきたいです。

今野さんの1日

9:00	出勤
9:00 ~ 18:00	メールチェック 営業活動報告の確認 新規企画の設計準備 他部門への依頼（例えば、デザイン部門への紙面デザインの修正依頼 エンジニア部門へのサイトシステムの改善依頼） 読者・顧客拡大のための施策運用 (12:00 昼休憩)
18:00	退勤

仕事柄についてやってしまうこと

現在新規事業に携わっているのですが、新しい事業のため、まだまだ認知度が低い状態にあります。そのため「どうやって人に知ってもらおうか」について、各企業がどのような取り組みをしているのかが気になります。

例えば何か調べたいことがあって検索した際に「広告」とついているものを重点的に見たり、キュレーションサイトやWebメディアを見ているときに「PR」とついた記事があればあまり興味がない話題でも読んでしまいます。

記者紹介



東北福祉大学2年 林 哲平

今回初めて学生記者として取材をし、記事を書かせて頂きました。名前を聞いただけではわからない「リスペクト」という会社に、取材に行く前から非常に興味を惹かれました。実際に調べてみると、そこには社員の方が生き生きと働いている姿があり、素敵な会社だなと感じたのが第一印象でした。事業内容を見た時、不思議と納得した自分がいたのを今でも覚えています。こんなに仲間思いな会社だからこそ、クライアントの依頼に親身に対応するのだらうと感じたのです。会社に実際に取材に行った時も、同じ感情を抱きました。先輩後輩のギクシャクした雰囲気など一切なく、和気あいあいとしたオフィスでした。初めて担当した会社がリスペクトさんでよかったと心から思っています。ありがとうございました。



宮城学院女子大学2年 熊谷 未来

取材に伺った際は、実際にお仕事をなさっている姿は見られませんでした。お話を伺っていて受けた印象は社員同士の関係性がとてもいいということです。社内には、それぞれ専門の知識を持った人たちが集まっていて、社員同士が相談し合える関係性であることで、幅広い知識を得られる環境だとわかりました。その環境があるからこそ、一人ひとりを成長させることができるのだなと思いました。

製造業

ワッティー 株式会社 仙台事業所

〒983-0035 仙台市宮城野区日の出町3-7-63 TEL:022-788-3501 FAX:022-788-3502
URL: <https://watty.co.jp/>



代表者 菅波 希衣子
代表取締役社長

資本金 9,500万円

創立・設立 1967年

受賞歴 2003年 ISO 9001
2008年 KES STEP2



お客様との「縁」を大事に業界一のヒータメーカーへ



五十嵐 康裕
仙台事業所 所長

全ての工程を大切に作る製造業

ワッティー株式会社は、高精度ヒータユニットといった製品の開発や販売を中心に行っている企業で、2007年に「京浜測器株式会社」から、現在の社名に変更となりました。ワッティーのものづくりの理念は「一品入魂」。それはモノづくりの現場だけでなく、営業、技術、品質など一つひとつの仕事を大切に、魂を込めて取り組むことを目指しているそうです。

仙台事業所は2018年に新たに開設された事務所で、ワッティーの3事業のうちの半導体製造装置向けの産業用ヒータや熱伝導率に優れたセラ

ミックヒータの製造・販売を行う「熱システム事業部」に属しています。

仙台事業所としては、製造面の品質はもちろんのこと、お客様一人ひとりと築く「縁」を大切に、万が一製品に不具合が生じた場合の迅速な対応など、あらゆる面でのサポートを重要視し、大切にされているそうです。また「ゆくゆくは業界一、世界一の製造メーカーになることが夢です」と五十嵐所長は熱く話してくださいました。

採用情報

※直近の採用人数

2017年	2名
2018年	7名
2019年	5名

事業内容

部品製造を中心にした効率いい事業

ワッティーの事業部は、センサ事業部、熱システム事業部、そして特機事業部の3つに分かれますが、その中でも仙台事業所は熱システム事業部に属しており、半導体製造装置の部品製造を主に行っています。仙台事業所が設立した背景には取引先より近隣で、との目的があるそうで、事実、製造の効率化にも繋がっているそうです。仙台事業所のクリーンルームで溶接、洗浄などの工程を経て製造されたクリーンガス配管は、取引先に納入され、半導体製造装置として組み立てられています。ちなみに1967年の創業時は今のような製造業ではなく一商社でしたので、今のようなものづくり中心の事業形態に変化したのは22年前とのことになるそうです。

求める人物像

まずは自分を大事に

お客様との関係を構築し「縁」を大事にしていくことが重要だと考えています。その上でやはりあいさつをきちんと出来る人間であって欲しいなと思いますね。次は自身の健康管理です。仕事によっては体力を使うので、自分の体調を日頃から確認しておくことも大事だと思います。最後は学ぶ姿勢です。仙台事業所では溶接や設計といった特殊な仕事でない限りこれといった特別な資格は必要としていません。勿論必ずしも工業系の学校を出ることが条件といったこともありません。しかしだからといって勉強が必要でない訳ではありません。慣れていくにつれ責任感・やりがいを持つような仕事になっていきますので、そうした上で新しいことをどんどん吸収していくための「学ぶ姿勢」というのは重要だと考えています。

将来ビジョン

お客様の立場に立った事業展開を

ホームページにも記載されている通り、「多様化するニーズと期待に如何に応えるか」というのは重要な問題だと考えています。ワッティーは元々製造業ではなく商社だった為に、どうしても他企業と比較して後進的な立ち位置になってしまうことが否めません。そこでまず重要だと考えている要素の一つに「あいさつ」が挙げられます。お客様との関係を構築するうえでコミュニケーションというのはとても大事ですし、その中であいさつというのは、私たちの印象をほぼ決定するものなのでしょう。そういったことを加味しても、今後はお客様との関係を大事にしていきながら、業界一のヒータメーカーとして展示会や売り込みを積極的に続けていきたいです。



「学ぶ姿勢」は大事だと語る五十嵐所長

ポイント

- あいさつ
- 自身の健康管理
- 積極的に学ぶ姿勢

WISE記者の
企業体験記

会社工場を見学して

会社の中を案内していただきました。ワッティーは東京に本社があり、事業所が相模原、仙台、浜松にあり、仙台では主にガス配管に特化しているそうです。

工場内では、半導体製造装置向け高純度プロセスガス配管の製造を行い、切断・溶接加工・純水洗浄から梱包のすべてをクリーンルーム内で製造していて、ナノレベルの不純物混入防止を徹底しているそうです。工場は厳重に管理されており、埃一つ通さないような密閉された空間で、作業をされている方もいらっしゃいました。

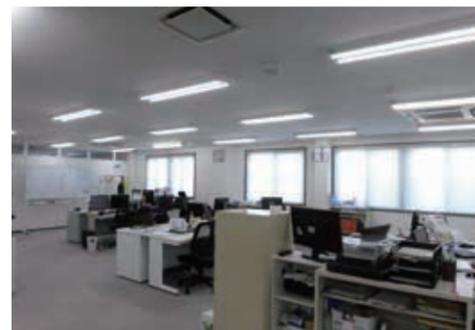
お話を伺った際に、営業活動でも、製品について好評をいただいております、リピート率も高くなっているようで、こういったクリーンな状態での製品開発が、信頼を得て、高評価に繋がっている面もあるのではないかと感じました。企業理念に掲げている“一品入魂”の精神が、ひしひしと伝わってきました。



ここが
知りたい

ワッティー株式会社の魅力

東京に本社がある企業という事で、基本給（みなし残業代込み）は一般的他企業よりは高めに設定されているそうです。また実力主義の側面が強く、たとえ20代半ばのような若い世代でもリーダーに就いている役職の方もいらっしゃいます。その為積極的に挑戦することが好きな人にとってのメリットが大きいようです。



オフィスの風景

先輩の
声

入社後は自ら学ぶ姿勢が大事です



佐藤 芳輝さん

熱システム事業部

入社したきっかけはワッティーで前社での経験（クリーンルーム内作業に従事していました）を生かせると感じたからです。実際に現在の仕事に従事していてもその通りだと感じますね。仕事においては特に前もって資格などを取得している必要はありませんが、入社後に実用的な技術を要するために勉強が始まります。設計や組み立てなどを行っていますので、入社前にあらかじめ図面について勉強し見方を理解しておくこと入社してからがスムーズになるかもしれません。最後になりますが、今後入社したいと考えている皆さんには入社の際教育を受けた場合はルールを徹底すること、また品質劣化に繋がるため作業を自己流で進めてはならないことの2点を留意しておいて頂ければと思います。

先輩の1日

8:30	出勤
	出荷前製品の検査
12:00	お昼休憩
13:00	部品の発注業務
17:30	終業

仕事柄についてやってしまうこと

業務上での「つつい」は特にありません。むしろその油断が事故や怪我に繋がってしまうため、あつたら困ります。その他で強いて挙げるとするならば、社員のほとんどが関東出身のため、おいしいお店の情報交換を行っている様子がしばしば見受けられます。

記者紹介



東北学院大学2年 小野夏実

ワッティー株式会社さんのお話をたくさん聞かせて頂いた中で、総じて仕事の基本の事柄をととても大事にされているということが伝わってきました。ワッティーさんは設立当初は商社だったからこそ仕事上では顧客との「信頼関係」を重視していらっしゃることで、従業員の皆さんには健康管理を心がけさせると共に仕事に対するやる気、やりがいを重要視できる環境づくりを大事にするために挨拶などを徹底されているというお話が特に印象的でした。素晴らしいお話をたくさん聞かせて頂きありがとうございました。

学生紹介



猪股 修平
東海大学
文学部
広報メディア学科 4年

宮城を離れて早4年。思えば、地元企業に目を向ける機会が乏しく、右も左も分からない中での取材でした。最初の研修で、宮城・仙台が他の地方都市よりも地元就職者が少ない現状を知り、少し耳が痛くなりました。というのも、私は既に広島で就職を決めているからです。「故郷を離れる私に何ができるのだろう」。迷いながらも WISE の活動に触れ始めました。力不足で2社しか足を運ばせませんでした。かけがえのない出会いがありました。お会いした皆さんは、地方だから出来ること、地方でこそ出来ることを各々で考えていたのです。宮城には無限の可能性がありました。そういえば東京の友人が「東京は何でもあるけれど、それは別に何でもないことなんだよ」と言っていました。今思えばこの言葉は「人で溢れかえる東京より、地方の方が活躍の場を見出せる」という意味に捉えられなくもありません。東日本大震災を経てより一層踏ん張る時が来ていると思います。求められているのは、WISE を見つけた、何者にも代え難いあなた。もし宮城で働くのだとすれば、私はあなたを羨ましく思います。だって、こんなにも素晴らしい場所で働けるのだから。

掲載ページ P12 (アンデックス 株式会社), P40 (株式会社 マーキュリー), P44 (株式会社 ミツイ)

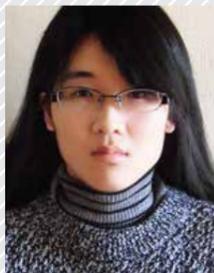


佐藤 千智
尚綱学院大学
総合人間科学部
表現文化学科 2年

もともと文章を書くことに興味があり、知人からの紹介を受けて今回 WISE 事業に参加しました。取材を通して、今までは見えてこなかった地元企業ならではの魅力を多く知ることが出来ました。それまでは企業=CMなどでよく目にする有名企業というイメージが強く、地元企業の事業概要などはあまり把握していませんでした。今回同じ班の方となかなかスケジュールが合わず、結局1度も一緒に取材に行くことができなかったのですが、私は宿泊業と建設業という全く反対の企業に取材に行かせていただいたのですが、どちらの企業にもその会社にしかない魅力があり、今回 WISE に参加しなければ聞くことができなかったであろう貴重なお話まで拝聴させていただきました。

今回記事を作成するために協力してくださいました企業の方々、WISE の方々1年という短い間ですがお世話になりました。今回の経験を今後の自分の進路選択や就職活動に生かしていくように尽力していきたいと思っています。

掲載ページ P8 (有限会社 奥州秋保温泉 蘭亭), P20 (クラシタス 株式会社)



小野 夏実
東北学院大学
経済学部
経済学科 2年

友人の紹介で今回参加させて頂きました。取材自体の経験はあったものの、いざ取材を行い原稿執筆となるとスケジュール調整の段階から苦勞し、記事の内容にとっても悩みました。しかし企業の方々には何度連絡しても真摯に取材に向き合ってください、それが活動中の大きな心の支えになりました。「バレットグループ株式会社」「ワッティー株式会社」の皆様、本当にありがとうございました。

また同じ班と一緒に活動したメンバーにも感謝してもしきれません。お互い2人での活動は不安な点も多く大変だったと思いますが、忙しい中相談に乗ったり手伝ってくれてとても助かりました。ありがとうございました。

他にも記事の添削を行って頂いた WISE をはじめとする全ての関係者の方々にこの場でお礼を申し上げます。拙い点も多いですが、2つの企業の魅力を少しでも伝えることが出来ていればとても嬉しいです。今回の活動は自分の中で貴重な良い経験になったと思います。

掲載ページ P36 (バレットグループ 株式会社), P60 (ワッティー 株式会社)



菅原 奈央
東北福祉大学
総合マネジメント学部
産業福祉マネジメント学科
3年

学生記者の活動を通して、地元企業のたくさんの魅力を知りました。仕事への思い、地域貢献の活動、より良い組織にするための工夫など、取材した企業のそれぞれに、私たちの知らなかった魅力があることが分かりました。最初の取材時には、普段の学生生活では話を伺う機会のない、社長や働く方に学生だけで取材を行うことが不安で、とても緊張しました。しかし、回数を重ねると質問の仕方や聞き方のコツが掴めるようになり、スムーズに取材を進めることができました。また、執筆作業では、初めてで慣れないこともありましたが、読む方が企業に興味を持ってもらえたら良いなという思いで作業に取り組みました。学生記者の活動では、初めて経験することや教わることで学ぶことが多く、私自身も成長することができたと感じます。これまでの私は、積極的に動いたり考えたりできずにいましたが、学生記者として活動したことが、現在では自信になっています。WISE に参加したことは、学生生活の大切な経験の一つになりました。

掲載ページ P4 (愛さんさんビレッジ 株式会社), P48 (みやぎ生活協同組合), P52 (株式会社 八重樫工務店)



熊谷 未来
宮城学院女子大学
学芸学部
日本文学科 2年

私は、去年大学1年生で初めてこの WISE の活動に参加しました。今年は2年目の参加ということもあり、経験を生かして活動することができました。WISE の活動に参加した2年間で、仙台の企業を8社取材させて頂きました。8社とも魅力があり、同じ会社という場であっても社内の雰囲気など同じところはなく、取材するたびに色々な仕事の形に触れることができました。仙台での地元就職の促進の為、大学生の目線から企業の魅力を発信することを主軸としている活動ではありますが、企業の魅力を感じられるのはもちろん、企業の方とのやり取りでの言葉遣い・原稿作成で要点を整理する力など、社会人として必要な経験をさせて頂きました。自分自身すごく得ることが多く、とても貴重な機会になりました。私たちがスマートフォンやパソコンで簡単に得られる情報はどれも表面的なものです。実際に話を聞いたりその環境に赴くことで初めて気づくことができる魅力がたくさんつまっているのだなと感じました。現代は情報が簡単に得られるからこそ、そこに頼りがちですが、直接的な体験を通して感じるものを重視していきたいと強く感じました。

掲載ページ P8 (有限会社 奥州秋保温泉 蘭亭), P16 (岳南建設 株式会社 仙台支店), P24 (東社シーテック 株式会社), P28 (株式会社 ねこまた), P32 (株式会社 ハシカンブラ), P56 (株式会社 リスペクト)



鈴木 章太
東北工業大学
ライフデザイン学部
経営コミュニケーション学科
2年

私は今回のインターンを大学で配布された資料をきっかけに参加を試みました。宮城で生まれ宮城で育った自分ですが、全く聞いた事のない会社にも触れられ新たな発見がありました。また地域を活性化させようと頑張っている企業を周知する力に少しでもなれたと実感しています。

今回のインターンを経験して感じたことは、企業の代表者さんは仕事に対して熱心というより仕事を好きでやっているんだなと感じました。私の社会人の印象とは違って、仕事の取り組み方・価値観に触れることが出来、勉強になりました。

このような体験を通して、社会人としての言葉の使い方、電話の仕方など普段丁寧語を使わないせいか臨機応変に対応することに苦戦しました。また取材までの事前準備から原稿作り、企業さんと河北さんの社員さんの仲介役、自分には今まで経験した事がなかった分色々なものを吸収できた気がします。

社会人になるまではまだ時間があるので、これからもこの経験を活かして大学生としてインターンなどの社会活動を盛んに行っていこうと考えています。

掲載ページ P32 (株式会社 ハシカンブラ), P36 (バレットグループ 株式会社)



高井 円香
東北学院大学
経営学部
経営学科 3年

私がWISEに参加しようと思ったきっかけは、大好きな文章を書くことを通して誰かの役に立ってみたいと思ったのが始まりです。

2年時の講義でWISEの冊子を初めて手に取り、「自分が知らないだけで実はこんなに様々な事業をしている企業が宮城にあるんだ」ととても興味深い印象を持ちました。さらに、この記事執筆したのが同年代の学生と知り「私もやってみたい」と思い参加を決めました。

そして取材を通して本当にたくさんのことを学びました。私たちの班は石巻市、大河原町など自分では普段いかない地へ取材に行ったのですが、仙台に暮らしては分からないその地域の景色がありました。そこで地元を盛り上げようと踏ん張る企業の姿を取材できた経験は、今までなんとなく思い描いていた就職活動の視野を大きく広げてくれました。取材では6人の社会で働く方とお会いし、当たり前ですが「同じ」が1つもない人生ストーリーを伺えたことは、とても充実した時間であり人として勉強になりました。関わっていただいた方々はじめ班のメンバーのみんな有難うございました。

掲載ページ P4 (愛さんさんビレッジ 株式会社), P48 (みやぎ生活協同組合), P52 (株式会社 八重樫工務店)



林 哲平
東北福祉大学
総合マネジメント学部
産業福祉マネジメント学科
2年

今回初めてWISEの学生記者として記事の執筆をさせていただきました。応募した時、私は学生生活がマンネリとしていて、ただただ過ぎていく時間に焦りを感じていました。そんなときに授業の中でWISEの存在を知り、迷った末に応募しました。学生記者としての活動は想像していたよりも学生主体のものでした。その分やりがいも多く、特に企業との連絡の取り合いなどは今後の人生の糧になったと思います。ただ、学校生活やアルバイトとの両立が難しく、投げ出したくなった時もありました。それでもWISEの方が手厚くサポートして下さり、無事最後までやりきることが出来ました。学生生活の焦りから始めた学生記者でしたが、いま振り返ると参加してよかったと思います。スケジュール調整がうまくいかず、なかなか取材に足を運ぶことは出来ませんでした。何とか一つの記事を書き終えた時はこれ以上ない達成感がありました。今回このWISEの学生記者で学んだことは、学校生活やアルバイトでは得られないものでした。この経験を今後忘れることなく、就職活動などに活かしていきたいです。

掲載ページ P56 (株式会社 リスベクト)



戸谷 凜太郎
東北工業大学
ライフデザイン学部
経営コミュニケーション学科
2年

私は今回、友人の誘いでWISEの活動に参加させて頂きました。記事を書く経験、取材をさせていただく経験は今までになく、初めての取材はとても緊張していたことを覚えています。実際に取材に伺ったのは「みやぎ生活協同組合」。普段スーパーマーケットとして利用する会社の内情を知ることができたことはとてもいい経験になりました。スーパーマーケットとして利用するだけではわからない会社の経営の背景などを知ることが出来ました。企業を取材しその内情を知れるという点でWISEは素晴らしい活動であると思いました。若者が地元企業を実際に取材させて頂き記事を書く活動は、自然と地域の問題や様々な業種の内容を詳しく知ることになる。大学2年生で就職を控えている私にとっては非常にいい経験となる時間を過ごさせていただきました。今回でWISEの活動が終わってしまうことは非常に残念です。時間の都合もあり取材をして記事を書かせていただいた会社はみやぎ生活協同組合の1社だけですが、一緒に取材を行ってくれた班員のみなさんと取材に応じてくれた会社の人には感謝をしています。1年間ありがとうございました。

掲載ページ P48 (みやぎ生活協同組合)



劉 亦煒
東北大学
文学部
国語学研究室 3年
(交換留学生)

将来新聞社に入りたくいわけではないですが、新聞記者として取材するのはなかなか珍しい経験だと思ったので、WISEに応募してみました。WISEに初めての外国人なので最初は心細くて心配していましたが、スタッフさんはじめ、みんなは親切な人で丁寧にいろいろ説明してくださったり、気軽にさせました。

取材に行った時に事前に会社のホームページなどで基本情報を調べ、質問を考えてきました。そのおかげで実際にインタビューの時にほぼ予想通りに進めていけました。そして、一緒に取材に行ってくださった猪俣さんも相手の社員さんも私が外国人であることを介せず優しくしてくださいました。本当に感謝しています。

マーキュリーさんのような人材派遣の会社は初めて聞きましたので、とても新鮮で社員さんからいろいろ逸話も聞かせていただきました。中国と日本は近いですが、企業文化は大きく異なることは今回真実に感じていました。今回の経験を通じて、会社への理解を深めつつ、今後自分の就職活動を徐々に考えていきたいです。

掲載ページ P40 (株式会社 マーキュリー)



新関 萌恵
東北学院大学
法学部
2年

私は大学の先生にWISEを勧められたことがきっかけで、この活動に参加させて頂きました。何度も挫折しそうになりましたが、振り返ってみると良い経験になったと感じます。

私は、もともと内気な性格もあってか、人に対して自分の意見を言うことができませんでした。しかし、取材を重ねていくにつれ、自分の意見を言わない、つまり主体性がなく受け身の姿勢でいる自分を変えなければと強く思うようになりました。この意識の変化は、WISEに参加したからこぞ手に入れることができました。

WISEは学生主体のプロジェクトであるため、各々が主体的に動かなければなりません。この点がやりがいの1つだと個人的に思います。私以外の学生メンバーがいない取材は、当初は不安でいっぱいでしたが、今となっては良い思い出です。自分が動かなければ取材が行えない状況だったため、プレッシャーが大きいながらも、この取材で特に主体性の重要性を学ぶことができました。完成したwebページを見た時の感動は今でも忘れられません。

WISEは中小企業の魅力を知ることができる他に、自分を見つめなおす機会にもなりました。少しでも興味があれば、ぜひ、参加をオススメしたいです。

掲載ページ P44 (株式会社 ミツイ), P12 (アンデックス 株式会社)



穴戸 雅美
東北工業大学
ライフデザイン学部
経営コミュニケーション学科
2年

生まれ育った地元である宮城県と、都会でキラキラしたイメージのある東京、どちらに就職するか悩んでいました。興味を持った企業は東京にあることが多く、地元企業をあまり知らなかったからです。そんな時に大学の授業の中でWISE事業が紹介され、地元企業の特徴や良さを知るきっかけになるのではないかと思い参加を決めました。

WISEの活動の中で特に印象に残っていることは、地元企業は地元を盛り上げたいという思いが非常に強いということです。地元貢献の精神を大切にしていることこそが地元企業の特徴であり良さだと思います。

今回WISEの活動に参加して、私は地元企業に興味を持つととしていなかっただけだということや、地元企業にも魅力的な企業があることを知ることができました。WISEの活動で関わった全ての方々に感謝申し上げます。WISE事業は今回で終わってしまうそうですが、今後も視野を広く持ち、様々なことに挑戦していきます。

上京を考えている学生の方々にとって、この情報誌が仙台や地元企業の良さを再発見するきっかけになれば幸いです。

掲載ページ P8 (有限会社 奥州秋保温泉 蘭亭)

情報通信業	
アンデックス 株式会社	12
建設業	
岳南建設 株式会社 仙台支店	16
株式会社 八重樫工務店	52
製造業	
株式会社 ねこまた	28
ワッティー 株式会社 仙台事業所	60
情報通信業	
東社シーテック 株式会社	24
バレットグループ 株式会社 仙台支店	36
不動産業、物品賃貸業	
クラシタス 株式会社	20
学術研究、専門・技術サービス業	
株式会社 ハシカンプラ	32
宿泊業、飲食サービス業	
有限会社 奥州秋保温泉 蘭亭	8
医療、福祉	
愛さんさんビレッジ 株式会社	4
株式会社 ミツイ	44
複合サービス事業	
みやぎ生活協同組合	48
その他サービス業	
株式会社 マーキュリー 東北支店	40
分類不能の産業	
株式会社 リスペクト	56

発行：仙台・地域人材定着推進実行委員会

発行日：令和2年3月27日

企画・編集・印刷：仙台印刷工業団地協同組合

※本誌内容の無断転記、記載、複写はご遠慮ください。



WEB版

<http://wise-sendai.jp>



お問い合わせ

仙台・地域人材定着推進実行委員会事務局

Fax. 022-288-7600 E-mail. wise-info@wise-sendai.jp

運営体制

仙台・地域人材定着推進実行委員会

仙台市経済局 株式会社河北新報社 仙台印刷工業団地協同組合
地域協働教育推進機構